

19. 感染症情報センター

センター長 岡部 信彦

概要

平成9年4月国立予防衛生研究所は「国立感染症研究所」と名称変更になり、それまでの感染症疫学部は発展解消し「感染症情報センター（初代センター長・井上栄博士）」が発足した。主な機能は、1) 感染症サーベイランスデータの集計、感染症情報の収集、解析、その情報の国民への提供、2) 外国の感染症機関との情報交換、3) 感染症集団発生の疫学調査、およびそれを実行する専門家の養成、4) 感染症予防制圧戦略の研究および提言、5) 不明病原体に関する検索並びに研究、技術伝達、等である。

平成11年4月に施行された感染症法では、サーベイランスシステムの強化が示されている。同法に基づいた基本指針の中には患者発生状況サーベイランスと同様に病原体に関する情報の収集、分析及び提供と公開も必要であるとされている。感染症情報センター(IDSC)は、国のサーベイランス事業の中で中央感染症情報センターとして位置づけられ、地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て、感染症法に規定された1-5類感染症(平成15年11月1-5類に類型が変更された。それまでは1-4類感染症)を中心にしたサーベイランスを行っている。病原体情報については WISH Net, IDSC ホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)、病原微生物検出情報(IASR)を中心として、疾患の発生動向については感染症週報(IDWR: Infectious Disease Weekly Report)などを中心として、収集された情報の迅速な還元と公開を行っているところである。血清疫学調査としては、感染症流行予測調査事業の中でこれを行っている。このデータ等を基礎とし、感染症対策の重要な一角としての予防接種のあり方についてのエビデンスを求めるとも IDSC の重要な業務である。

感染症発生への適切な対応の一環として実地疫学の重要性が理解されつつあるが、これにかかわる人材の育成は感染症危機管理対策上、極めて重要である。感染研では業務の一つとしてこの人材教育(実施疫学調査専門家養成コース(FETP))が行われているが、研修

実施の主体は IDSC が行っている。

IDSC には、ラボ機能もある。予防接種関連疾患のウイルス診断、他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。ことに、不明疾患のスクリーニングに関しては、感染研各専門部と競合しないような形で機能充実を図っており、また外部からの検査依頼に関して感染研の窓口機能なども要に応じて引き受けている。自治体などにおける病原体検査の標準化、検査法の伝達などの病原体診断にかかわる技術伝達講習も行っている。

IDSC は、上記のような機能を6室で分担ないしお互いに協力し合いながら、主に以下のような業務研究を行っている。

第一室（感染症対策計画室：谷口清州室長）

国内外における感染症の流行、集団発生・異常集積時の疫学調査、感染症対策のための計画立案とそのための研究などを行っている。ことに積極的疫学調査、これに関わる感染症実地疫学専門家の養成を行っている(Field Epidemiology Training Program)。院内感染対策も一室のテーマとしている。パンデミック対策は、IDSC スタッフ参加のもと一室を中心にして取り組んでいる。

第二室（感染症情報室：多田有希室長）

地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て国内感染症サーベイランスデータの収集・分析、及びその結果の還元と提供及びそのための研究を行っている。感染症情報の還元、提供は、感染症週報(IDWR)、病原微生物検出情報(IASR)、感染症発生動向調査事業年報、感染症情報センターホームページなどによって、主に同室の業務として行われている。

第三室（予防接種室：多屋響子室長）

感染症流行予測調査事業の一環として行われている

血清疫学調査の立案と実施、現行予防接種の効果と副反応に関するモニタリング、これらの結果の公表と広く一般への情報提供、予防接種対象疾患の感染症として人に与える影響（disease burden）に関する調査研究、及び今後の我が国における予防接種の有用性に関する総合的研究を行っている。また感染症研究所業務として行われている国内血清銀行の管理運営を行っている。麻疹対策は、IDSC スタッフ参加のもと、三室を中心に行っている

第四室（病原診断室：藤本嗣人室長）

他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。全国衛生微生物技術協議会の病原微生物レファレンスセンターのうち、アデノウイルス、ノロウイルスのレファレンスセンターを担当している。ことに、不明疾患のスクリーニングに関しては、感染研各専門部と競合しないような形で機能充実を図っており、また外部からの検査依頼に関して感染研の窓口機能なども果たしている。

第五室（細菌研修室：伊藤健一郎室長）

細菌性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。また国内外の関連機関と連携し、公衆衛生における細菌検査の技術向上・標準化等を支援している。公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象に細菌検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の研究などを行っている。

第六室（ウイルス研修室：木村博一室長）

ウイルス性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。国内外の関連機関と連携し、公衆衛生におけるウイルス検査の技術向上・標準化等を支援している。また、公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象にウイルス検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の開発研究なども行っている。

各室の業務、研究、作業は、独立した個別のテーマもあるが、その多くは各室のスタッフが、それぞれが重なり合い、協力し合いながらテーマ別に集合して取り組んでいる。国内・国外における感染症対策調査、

対策策定、種々の討議への参加、研修なども同様である。したがってそれぞれの業務研究等について各室別に表すのではなく、その内容ごとに情報センターの1年間の活動内容を記した。詳細については以下それぞれの項目別に記されている。

なお、センター長岡部は以下の委員の委嘱を国より受け、国における感染症対策検討の多くに参画している。その背景には、情報センターにおける業務・研究の結果があり、委員会等においてはこれらの結果に基づいた資料などを、多く提供している。

- ・ 厚生省労働省健康危機管理調整会議委員
- ・ 厚生労働省厚生科学審議会臨時委員（感染症分科会員、新型インフルエンザ対策ワーキンググループ委員長）
- ・ 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（医療機器・体外診断薬診断部会員）
- ・ 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（食中毒部会員）
- ・ 厚生労働省疾病・障害認定審査会臨時委員（感染症・予防接種審査分科会委員長）
- ・ 厚生労働省厚生科学審議会生活環境水道部会委員
- ・ 内閣府食品安全委員会専門委員（肥料・飼料等専門調査会委員・緊急時対応専門調査会専門委員・微生物ウイルス専門委員）
- ・ 農林水産省食料・農業・農村政策審議会臨時委員
- ・ 厚生労働省地域保健対策検討会委員（ワーキンググループ委員長）
- ・ 医薬品医療機器総合機構専門委員
- ・ 厚生労働省健康局エイズ動向委員会委員
- ・ 日本学会会議連携委員
- ・ 厚生労働省厚生科学審議会臨時委員（健康危機管理部会委員）
- ・ 内閣府危機管理官テロ対策アドバイザー（バイオテロ）
など

また同様に WHO の依頼による、専門委員等の委嘱も受けている。

- ・ WHO 本部 IHR 国内連絡担当

- ・ WHO 本部 予防接種戦略策定諮問委員会
参加メンバー
 - ・ WHO/WPRO ポリオ根絶地域確認委員会副議長
(副議長)
 - ・ WHO/WPRO 拡大予防接種計画技術諮問委員会
参加メンバー
 - ・ WHO/WPRO 新興感染症、IHR 技術諮問委員会
参加メンバー
- その他、臨時の諮問委員等

業 績 調査・研究

・ 感染症発生動向調査事業に関する研究

1. サーベイランスシステムの改善に関する研究

厚生労働省新興再興感染症研究事業として「効果的なサーベイランスの評価並びに改良に関する研究」(主任研究者 谷口清州)を組織し、感染症サーベイランスの在り方について研究を行い、新型インフルエンザ対策やシステムの改善事業に対して技術的支援を行った。

[谷口清州、多田有希、安井良則、藤本嗣人、山下和予、重松美加、砂川富正、中島一敏、大日康史、島田智恵、菅原民枝、井内田科子、岡部信彦]

2. 感染症発生動向調査に基づく注意報・警報システムおよび全国罹患数推計に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究」(主任研究者 谷口清州)の一環として、まず、定点報告疾患について、注意報・警報システム及び全国罹患数推計の検討および検討方法の評価を継続して行った。特に本年度は、昨年度の研究として提案した「都道府県の警報レベル設定」を、厚生労働省を通じ、都道府県に事務連絡できた。さらに、全数報告疾患のうち3類、4類および5類の一部について、時間的・空間的分布の解析を継続して行った。

[多田有希、谷口清州、重松美加、安井良則、橋本修二(藤田保健衛生大学)、川戸美由紀(藤田保健衛生大学)、大田晶子(埼玉医科大学)、泉田美智子(埼玉医科大学)、永井正規(埼玉医科大学)]

3. 中央感染症情報センターの視点からの感染症サーベイランスの評価と改善に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究」(主任研究者 谷口清州)の一環として、中央感染症情報センターの立場から、感染症発生動向調査の現状を検討した。

2006年4月稼働のシステムは、旧システムと比較して、報告の適時性向上が認められ、対象疾患の変更などにも柔軟に対応可能となっていた。一方、患者情報と病原体情報の連携状況や、入力・解析作業の効率化はさらに改善すべき点が多いといえることがわかった。今後も検討を継続し、改善を図る。

[多田有希、島田智恵、加藤信子、山下和予、吉川昌江、阿保満(東京都健康安全研究センター)、鈴木智之(群馬県衛生環境研究所)、松館宏樹(岩手県環境保健センター)、森山和郎(大阪府健康福祉部)]

4. 症候群サーベイランスの基礎的研究

症候群サーベイランスのうち、外来受診時の症状、救急車搬送、学校欠席者、調剤薬局のサーベイランスについて実証研究を行った。一部の地域でサーベイランスを稼働させ、情報を保健所・県庁に提供し、早期共有に貢献した。研究成果を国内の症候群サーベイランスへの活用をはじめ、東南アジア、中国、韓国へ紹介した。

[大日康史、菅原民枝、吉田真紀子、谷口清州、岡部信彦]

5. アメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステム事業への参画および研究的解析

昨年度2004年度に、財団法人ヒューマンサイエンス振興財団若手研究者育成活用事業によるCDCの院内感染対策部門へ派遣を受けて以来、本年度も引き続きアメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステムの改訂作業に協力した。また、手術部位感染に関する同システムに集積されたデータを用いて、日米の発生動向の相違や発生リスク因子に関する検討を行なった。

[森兼啓太、Teresa Horan(CDC)、Mary Andrus(CDC)、Jonathan Edwards(CDC)]

6. 麻疹発生DBおよび百日咳発生DBの構築・運用

平成18年の関東での麻疹流行を受けて、麻疹疑い症例の登録を行う麻疹発生DBを構築し、本年度も運用した。平成20年からの全数報告への移行の検討に際して、サーベイランスの項目の有用性についての情報を提供した。百日咳についても同様に、平成19年の集団発生を受けて、百日咳発生DBを構築した。

[大日康史、菅原民枝、山本(上野)久美、多屋馨子、安井良則、西藤なるを(西藤こどもクリニック)、砂川富正、岡部信彦]

7. ノロウイルス集団感染調査マニュアル案の策定・公表

厚生省監視安全課からの依頼により、食中毒および感染症の両方のパターンを取りうるノロウイルス集団感染時の調査マニュアル案を、「ノロウイルス集団発生事例に対して感染症および食品部局が共同で実施する初期実地疫学調査および微生物学検査のポイント」として公表した。内容は、疫学調査に関する記述および検査診断に関する記述の二つに大別される。しかしながら、まだ実用には遠い内容であり、今後の改善が必須である。

[谷口清州、藤本嗣人、砂川富正、松井珠乃、安井良則、高橋亮太、杉下由行、野田衛(国立医薬品食品衛生研究所)]

. パンデミック、バイオテロ、公衆衛生対策に関する研究

1. 国際保健規則(IHR 2005)の改正に伴う国内体制に関する研究

IHRの改正に伴い、今までに比べて広範囲な公衆衛生学的な国際的脅威(PHEIC)への対応が求められるようになり、WHOの加盟国は国のフォーカル・ポイントを中心とした報告機構の構築や、コア・キャパシティの確立を2012年までに達成することが必要となった。厚生労働省新興再興感染症研究事業「改正国際保健規則への対応体制構築に関する研究(主任研究者谷口清州)」を組織し、米、英、仏、独、豪の先進各国における進捗状況について、報告システム、PHEICの

判断、サーベイランスに着目して情報収集と現地での担当者聞き取り調査を行い、日本が自国に最適は対応を、効率的に実践することを可能にする提言を報告書にまとめた。

[谷口清州、森兼啓太、砂川富正、重松美加、松井珠乃、山本(上野)久美、中島一敏]

2. 新型インフルエンザのパンデミック対策に関する研究

(1) 数理モデルを用いて、新型インフルエンザの被害を予測し、公衆衛生的対応を評価、検討した。首都圏、福岡県、仙台市に加えて中京圏、関西圏、宮崎市、沖縄県、札幌市において、首都圏で一例目の新型インフルエンザ感染者がでた後に、地方都市へ感染拡大したと想定したモデルを用いて、被害拡大を予測した。また政策介入として、外出自粛の効果について検討した。それらの流行拡大に関してGIS(地理情報処理システム)を用いて表現し、自治体に提供した。

(2) 数理モデルに用いるパラメーターのうち、人々の行動に関する調査研究を行った。特に、パンデミック時の外出自粛の割合、在宅勤務体制の現状、食料備蓄の現状について検討した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州]

3. バイオテロ対策の数理モデルの開発

バイオテロに使用される可能性のある感染症、特に天然痘、ペスト、炭疽菌に関して、数理モデルを用いて公衆衛生対応について評価した。その結果を、GIS(地理情報処理システム)を用いて地図上に表現し、より現実的に被害の探知、地域的な拡散を検討した。天然痘の数理モデルは天然痘対応指針の改訂の議論に提供した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦]

4. バイオテロ対策指針の開発

「生物テロに使用される可能性の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究班」主任研究者(佐多徹太郎)における臨床小班とともに、臨床医のためのガイドラインを策定し、ホームページを開発した。

[谷口清州、松岡静香、柴崎伸子、佐多徹太郎(感染

病理部)]

5. バイオテロ防止におけるバイオリスク管理、教育、訓練の方法論に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「病原微生物の取扱におけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究」(主任研究者：杉山和良)の研究分担として、バイオテロにおいて利用される可能性のある病原体保有施設を対象としたバイオセキュリティリスクとバイオセーフティリスクを低減し、効果的リスク管理の実践を目標とした研究を行った。科学的なバイオリスク評価手法の確立、リスクコミュニケーションを含めたバイオリスク低減に関する意識向上活動、日常研究活動を支援する継続教育としてのバイオリスク対応の訓練法と教材の提供について、米国、英国、カナダ、国際学術団体と協力し、国際指針の作成、ワークショップやシンポジウムの開催、翻訳による情報の普及、施設毎に自己診断できるバイオセキュリティリスク評価ツールの試供版作成を行った。感染症法の改正を受けて、国内の病原体輸送に関する研修会を地方ブロックごとに開催した。

[重松美加、安藤秀二(ウイルス第一部)、佐多徹太郎(感染病理)]

6. 感染症法のリスクコミュニケーションに関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「感染症への国民啓発に効果的なリスクコミュニケーション方法と教育方法に関する研究」(主任研究者：丸井英二)の分担研究として、海外旅行、気候変動、パンデミックやバイオテロなどの感染症を取り巻く状況の変化から、あらゆる人にとって知識を身につけ、自己防衛することが重要となったことを受けて、効果的な感染症のリスクコミュニケーションの方法としての、映像、ゲーム、リーフレットの作成に協力し、国際的な感染症におけるリスクコミュニケーションの現状とツールの情報収集を行った。

[重松美加、谷口清州]

7. 症候群サーベイランスを用いた高齢者福祉施設の

感染症対策強化に関する研究

「効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論に関する研究」(主任研究者 谷口清州)の一環として、大分県中津保健所と共同で、同保健所管内の高齢者福祉施設を対象に施設内感染症対策に関する研究を行った。施設職員が自立的に維持運用できるよう簡略化した症候群サーベイランスを実施し、施設間ネットワークとともに保健所が感染症対策の指導、コンサルテーションの窓口となるシステムを確立した。感染症発生の早期発見早期対策のみならず、職員の能力開発の向上もみられた。

[中島一敏、谷口清州]

・ 感染症の疫学、統計等に関する研究

1. インフルエンザによる超過死亡の評価

人口動態調査の月別全死因死者数のデータから、インフルエンザ流行の我が国の人口動態に与える影響を、「感染研」モデルを用いてインフルエンザによる超過死亡を推定し検討した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州]

2. インフルエンザ関連死亡迅速把握に関する研究

18大都市から提供されるインフルエンザ関連死亡(インフルエンザ及び肺炎死亡)数を用い、「感染研モデル」と同種の超過死亡推定モデルを適用し、各都市毎の週単位の超過死亡を推定し、迅速な情報還元を行った。

[大日康史、菅原民枝、前田明日香、柴崎伸子、谷口清州、厚生労働省健康局結核感染症課、18大都市・特別区衛生主幹部局]

3. インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究

インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常行動について、2006/2007シーズンは後ろ向き調査を、2007/2008シーズンは前向き調査を重度、軽度に分けて実態把握を行い、安全性調査委員会に情報提供した。

[岡部信彦、大日康史、菅原民枝、谷口清州]

4. 手術部位感染の疫学に関する研究

日本環境感染学会の学会事業である JNIS (Japanese Nosocomial Infections Surveillance) の一環として、院内感染の中でも発生の影響が特に大きい手術部位感染に関して、医療機関で行われるサーベイランスのデータを集積し集計を行い、各施設へのフィードバックを実施した。さらに、手術部位感染のリスク因子に関する研究的解析を行い、学会報告した。

[森兼啓太、日本環境感染学会 JNIS 委員会]

5 .透析施設における C 型肝炎の伝播防止に関する研究

厚生労働科学研究班「透析施設における C 型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究」(主任研究者：東京女子医科大学・秋葉隆教授)の分担研究者として、世界における透析関連感染のデータベース調査や感染防止ガイドラインの調査を行なった。その知見に基づき、日本における透析関連感染サーベイランスのシステムを策定した。

[森兼啓太、吉田真紀子、満田年宏 (横浜市立大学)、操華子 (国際医療福祉大学)]

6 .リケッチア症サーベイランスの評価

新興・再興感染症研究事業「リケッチア感染症の国内実態調査および早期診断体制の確立における早期警鐘システムの構築」(主任研究者 岸本寿男、分担研究者 岡部信彦)により、宮崎県の内科標榜医療機関を対象としたつつが虫病、日本紅斑熱のサーベイランス認知度および診断・報告状況を調査し、学会発表ならびに医療機関への情報提供を行った

[松井珠乃、佐藤弘、藤本嗣人、岡部信彦]

7 .乳幼児施設におけるインフルエンザの発生動向の調査研究について

乳幼児の集団生活施設における流行シーズンのインフルエンザ流行状況、インフルエンザ罹患後の経過、インフルエンザワクチンの接種状況等を明らかにすることを目的として、平成 18 年度に引き続いて、平成 19 年度も大阪府内 1 施設、愛媛県内 4 施設の合計 5 保育施設における、ワクチン接種状況に関する調査を実施し、加えてインフルエンザの罹患・発生状況の調査

を行った。

インフルエンザ発生の鋭敏な指標として、施設内において発熱者のサーベイランスを行うことは、できる限りインフルエンザの発生を抑制することが望ましい、このような障害児施設内でのインフルエンザの集団発生を防止するためにも有用であると思われる。

[安井良則、近藤弘一、藤井史敏、岡部信彦、谷口清州]

8 .インフルエンザ脳症の発生報告について

2006/07 シーズンの国内におけるインフルエンザとインフルエンザ脳症の発生動向について、感染症発生動向調査による全国のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者発生報告と、地方衛生研究所からのインフルエンザウイルス分離報告、及び 2004 年 3 月から新たに 5 類全数把握疾患として届出対象疾患となった急性脳炎の中でのインフルエンザ脳症の発生報告を集計・解析し、その関連性と現在のインフルエンザ脳症発生例の把握システムに関する課題について考察を行った。

[安井良則、多田有希、多屋馨子、山本(上野)久美、岡部信彦、森島恒雄 (岡山大学大学院小児医科学)]

9 .性感染症 (STD) 発生動向調査の評価と解析

厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究(主任研究者 小野寺昭一)の分担研究として、岐阜県、千葉県、兵庫県、石川県、茨城県、岩手県、徳島県で STD の全数把握を実施した。また、発生状況を現行の STD 発生動向調査で報告されている 5 疾患に関して発生動向調査と比較し、解析した。定点の妥当性、信頼性を検討した。

[岡部信彦、大日康史、多田有希]

10 .性感染症 (STD) 発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」(主任研究者 小野寺昭一)の一環として、感染症法に基づきサーベイランスが実施されている性器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋菌感染症 (以上定点把握) 及び梅毒 (全数把握)

の発生動向を解析した。定点把握については、前述の研究「性感染症（STD）発生動向調査の評価と解析」と合わせ、地域毎の定点数や診療科比率などを含め、サーベイランスのあり方・妥当性について評価することが今後の課題である。

[岡部信彦、多田有希、宮城裕人、阿保満、鈴木智之、五十嵐正巳]

1.1. 動物由来感染症の発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「我が国における動物由来感染症の感染実態把握に資する研究（主任研究者 高山直秀）の一環として、臨症現場における動物由来感染症の診療に役立ててもらふことを目的に、感染症法に基づき報告されている動物由来感染症のうち、E型肝炎、オウム病、日本紅斑熱、ライム病、レプトスピラ症の症状、診断方法などを、集計した。

[多田有希、高山直秀（都立駒込病院）]

1.2. 感染症疫学情報の解析・評価に関する研究

特定の感染症を患者発生情報と病原体情報の両面から総合的解析を行った。本年度中に「病原微生物検出情報」特集記事として掲載されたテーマは、2007年4月号：アメーバ赤痢、5月号：腸管出血性大腸菌感染症、6月号：HIV/AIDS、7月号：感染症法の改正、8月号：デング熱・デング出血熱輸入症例、9月号：麻疹、10月号：ノロウイルスの流行、11月号：インフルエンザ、12月号：急性脳炎、2008年1月号：レプトスピラ症、2月号：ボツリヌス症、3月号：百日咳である。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、徳永真里子、野地元子、多田有希、安井良則、谷口清州、多屋馨子、藤本嗣人、伊藤健一郎、木村博一、岡部信彦、井上栄（感染症情報センター）、渡邊治雄（副所長、細菌第一部）、寺嶋淳（細菌第一部）、小泉信夫（細菌第一部）、池辺忠義（細菌第一部）、倉根一郎（ウイルス第一部）、高崎智彦（ウイルス第一部）、岸本寿男（ウイルス第一部）、脇田隆字（ウイルス第二部）、武田直和（ウイルス第二部）、米山徹夫（ウイルス第二部）、田代真人（ウイルス第三部）、小田切孝人（ウイルス第三部）、荒川宜親（細菌第二部）、蒲地一成（細菌第二部）、新谷三春（細菌第二部）、高橋元秀（細菌第二部）、見理剛（細菌第

二部）、遠藤卓郎（寄生動物部）、中野由美子（寄生動物部）、小林睦生（昆虫医科学部）、今岡浩一（獣医科学部）、佐多徹太郎（感染病理部）、森亨（ハンセン病研究センター）、石井則久（ハンセン病研究センター）、中嶋建介（国際協力室）、山本直樹（エイズ研究センター）、山本茂貴（国立衛研）、北島智子（企画調整主幹）、宮村達男（所長）、吉倉廣（前所長）、滝本浩司（厚生労働省）、三木朗（厚生労働省）、高山研（厚生労働省）、三宅邦明（厚生労働省）、大森豊緑（厚生労働省）、井上隆弘（厚生労働省）、蟹江誠（厚生労働省）、小島三奈（厚生労働省）、柴辻正喜（厚生労働省）]

・予防接種ならびに予防接種で予防可能疾患における今後の感染症対策に関する研究

1. 水痘、帯状疱疹、ムンプス重症化例に関する疫学研究

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（主任研究者 岡部信彦）の分担研究として、2004年1月～2005年12月の2年間に、国内で水痘、帯状疱疹、ムンプスに関連して入院あるいは死亡、水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンに関連して入院あるいは死亡した患者につき全国アンケート調査を実施した（2006年度）。2007年度は、上記調査結果の確認作業、集計、解析を行った。

[多屋馨子、谷口無我、山本明史]

2. 麻疹、風疹ワクチンに関する研究

(1) 麻疹の地域流行の原因ならびに今後の対策に関する研究

茨城県南部、千葉県を中心として発生した麻疹の地域流行に際して、自治体への対策支援に加えて、麻疹の流行に関する調査研究を行った。

[松井珠乃、阿保満、鷺見宏、多屋馨子、山本（上野）久美、中島一敏、安井良則、岡部信彦]

(2) 2006年度第2期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査 - 最終評価（第2報：9月25日集計） -

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究（主任研究者 岡部信

彦)」の分担研究として、2006年6月2日から、1歳児(第1期)と5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間にあたるもの(第2期)を対象に、麻疹風疹混合ワクチンを用いた2回の定期接種が開始された。我々は、全国の市町村特別区における接種率の現状を把握する目的で、「2006年度第2期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査」を実施した。往復はがきを用いて、全国市町村特別区を対象に質問票による調査を行い、最終的に、2006年度第2期対象者における麻疹を含むワクチンの接種率は79.9%、風疹を含むワクチンの接種率は81.2%という結果を得た。2012年までにわが国から麻疹を排除するためには、第1期・第2期共に、95%以上の接種率が必要とされている。国および都道府県の積極的な支援の下、各自治体において、対象者一人ひとりに情報が行き届くきめ細やかな対応、接種を受けやすい環境の整備、それを可能にする予算確保等、95%以上の接種率確保・維持に向けた更なる取り組みが必要と考えられた。

[山本(上野)久美、多屋馨子]

(3) 麻疹排除計画案の策定、実施

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者 岡部信彦)」の研究の一貫として、平成24(2012)年というWHO西太平洋地域における麻疹排除目標の達成に向けて、国内で必要と考えられる様々な麻疹排除に関連する計画案の策定、および実施に携わった。その代表的なものとして以下を挙げる。

- 我が国における麻しん排除計画案
- 都道府県における麻しん対策会議の活動案
- 平成20年1月1日から開始となった麻疹および風疹の医師による麻疹届け出全数サーベイランス届出ガイドライン案
- 麻疹排除に向けた積極的疫学調査ガイドライン改訂案
- 医療機関での麻疹対応ガイドライン改訂案
- 学校における麻しん対策ガイドライン改訂案

上記の各種ガイドライン案の内容は、厚生省・文科省等との協議により修正加筆され、合意を得て感染症情報センターホームページに順次掲載された。ま

た、その内容の自治体等への伝達のために、平成20年2月に全国ブロック会議が開催され、全国7会場8回の説明が実施された。2012年の麻疹排除に向けた活動の基盤として、以降も必要なガイドラインの整備、政策への提言、各種調査の実施などが、感染症情報センターとして成されていく予定である(「情報センター麻疹チーム」)。

[岡部信彦、多屋馨子、山本(上野)久美、佐藤弘、多田有希、山下和予、安井良則、島田智恵、谷口清州、森兼啓太、大日康史、菅原民枝、砂川富正、松井珠乃、中島一敏、徳田浩一、堀成美、吉田真紀子、土田賢一、木村博一、谷口無我、山本明史、山田隆雄(厚生労働省)、高山研(厚生労働省)、三宅邦明(厚生労働省)、草柳英雄(厚生労働省)、岡田就将(文部科学省)、成瀬幸宏(文部科学省)]

(4) 大学における麻疹対策の調査及び大学休校中の大学生の行動調査

平成19年4月からの関東での麻疹流行で大学での休校が多数みられ、都内で休校を実施したA総合大学との共同研究で、麻疹流行の発症者調査、全学生調査、および休校中の大学生の行動調査を行い、大学の麻疹対策及び今後感染症危機管理の対策に役立てた。

[岡部信彦、大日康史、山本(上野)久美、菅原民枝、谷口清州、多田有希、多屋馨子、砂川富正、安井良則]

(5) 民間(私)企業を巻き込んだ麻しん排除運動の戦略に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者 岡部信彦)」の研究の一貫として、厚生労働省が推進する「麻しん排除計画」に従い、麻しん予防接種の普及啓発を、ターゲットとなる第三期(中学1年生)・第四期(高校3年生)に対して実行するための戦略策定を行った。

限られた予算で効果的にアプローチするため、環境省温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」の原理・原則を活用し、民間(私)企業を巻き込む方を提示するとともに、賛同企業と同時期に統一メッセージを発信す

るため統一ロゴ案、キャンペーン実施施策案、実行計画案の検討も行った。

[岡部信彦、佐々木経世(イーソリューション株式会社)]

(6) 学校における麻しん予防接種歴・発症状況の管理及び報告の仕様書

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者 岡部信彦)」の研究の一貫として、学校における麻しんの発生報告が、Fax や電話等で行われているため、迅速な対応ができていない状況に対し、予防・発生報告をシステムを用いて効率的に実行するための仕様書策定を行った。

学校における麻しん発生報告の現状をアンケート調査によって明らかにし、課題を整理した結果、システム戦略として、「平時における危機意識醸成」、「緊急時の迅速なオペレーション」、「IT 知識が低い前提の導入・運用」、「セキュアで安定的な運用体制」、「対象疾患拡大への仕掛け」を挙げた。さらに、同戦略に従い、具体的な施策案と概要設計、ベンダー選定の基準案を策定した。

[岡部信彦、佐々木経世(イーソリューション株式会社)]

(7) 予防接種後健康被害報告の効果的な解析と、迅速な対策に繋げるための研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者 岡部信彦)」の分担研究として、現在の予防接種後健康被害救済申請の内容と、予防接種後副反応報告書の内容を合体して検討するための管理システム概要の構築を行うための準備と海外での情報収集を行った。

[多屋馨子、北本理恵、山本(上野)久美]

(8) 麻疹全数迅速報告システムの問題点と今後への提言(2007年石川県麻疹迅速把握事業の経験から)

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者 岡部信彦)」の一貫として、「石川麻疹迅速把握事業」をもとに、麻疹の検査室診断のアルゴリズムを作成した。

[中村英夫(石川県はしかゼロ作戦委員会)、越田理恵(金沢市福祉保健局 健康推進部)、多屋馨子、岡部信彦]

(9) 麻疹の効果的制御に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討(主任研究者:清水博之)の分担研究として、麻疹教育啓発用DVDを作成した。麻疹についての正しい知識を広く提供し、重症化例調査を用いて、麻疹の疾病としてのインパクトを正確に把握するとともに、迅速な実験室診断に向けた取り組みは、麻疹の伝播予防ならびに排除に向けた取り組みとして重要と考える。

[山本(上野)久美、多屋馨子、佐藤弘、岡部信彦]

3. 小児における急性脳炎、脳症の病態、診断、治療に関する研究

沖縄県における急性ウイルス性脳炎・無菌性髄膜炎強化サーベイランス

沖縄県は日本脳炎ウイルス(JEV)の浸淫地域であるが、2005年度以降の日本脳炎ワクチン接種の事実上中止により発生リスクは増加している。そのため、同年度より沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県衛生環境研究所、琉球大学医学部病原生物学分野と共同で、全県的なJEV 感染症強化サーベイランスが実施されている。今年度日本脳炎症例は確認されなかったが、報告されていない脳炎症例が10例以上に上ることが後ろ向きに積極的症例探査により明らかとなり、今後の課題となった。ワクチン接種が行われていない状況下で、依然日本脳炎の感受性は年々増加していることから、継続的な調査研究が必要である。

[中島一敏、砂川富正、山本(上野)久美、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

4. DPT ワクチン接種間隔に関する研究

松山市、金沢市、堺市、牛久市、西宮市医師会等との共同で、DPT ワクチン接種間隔に関する検討を行った。

[多屋馨子、山本(上野)久美、安井良則、近藤弘一(松山市)、越田理恵(金沢市)、藤井史敏(堺市)、本多めぐみ(牛久市)、西本潤司(西宮市医師会)]

5. ワクチンの需要予測

ワクチンの安定供給を目的として、毎年インフルエンザワクチンの需要予測を行っている。また、ワクチン需給予測プログラム開発事業において、MR2 回接種制度移行に伴う麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの定期接種の中止の麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの需要予測を行い、麻しん風しん混合ワクチン3期、4期の需要分析、Hib ワクチンの需要分析を行った。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

6. ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析

ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析をインフルエンザ、水痘、Hib ワクチンなどを対象に実施している。インフルエンザに関しては、高齢者における予防接種公費補助の効果および抗ウイルス剤の費用対効果について検討した。水痘ワクチンの公費補助を実施している自治体においては、ワクチンの有効性、ワクチン不全、軽症化も含めて検討した。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

7. トラベラーズワクチンで予防が可能な疾患の発生状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者 尾内一信)の一環として、ワクチン接種の必要性評価の基礎資料として、海外渡航者における効果的な感染症予防に役立てることを目的に、感染症法の対象疾患のうち、ワクチンで予防可能な11疾患の国外感染例の報告状況を、2005年、2006年に引き続き解析した。

[岡部信彦、多田有希、島田智恵、山本(上野)久美、多屋馨子]

8. トラベラーズワクチンで予防が可能な疾患の認知状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者 尾内一信)の一環として、最近渡航を経験した者、もしくは、渡航を予定している者を対象に、ワクチンにより予防可能な12疾患の認知状況及び感染症情報の入手方法について、2006年度にアンケート調査を実施した。そのデータを、2006年度に引き続き解析し、啓発を行うべき対象者や方法を検討した。本年度はこの研究を含めた研究成果をもとに、研究班で、予防啓発のためのパンフレットを作成することができた。

[岡部信彦、多田有希、島田 智恵、菅原民枝、大日康史]

9. B型ウイルス性肝炎の発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築」(主任研究者 水落利明)の一環として、感染症法のもとで行われている感染症発生動向調査において届出られたB型肝炎の報告状況をまとめた。2005～2007年は毎年200例前後で推移し、30代男性に多く、国内での性的接触によるものに増加がみられた。血液由来感染として重要である本疾患は、従来の母子感染対策、医療行為による感染対策に加えて、性感染症としての対策が必要といえた。

[岡部信彦、多田有希]

10. B型肝炎ウイルスの水平感染に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築」(主任研究者 水落利明)の一環として、保育施設における血液の取り扱いに関してアンケート調査を実施し、その実態について研究した。保育施設でのB型肝炎ウイルスの水平感染を予防するためには、universal vaccinationが必要であると考えられた。

[多屋馨子、越田理恵(金沢市福祉保険局)、岡部信彦]

11. 疾病の流行状況とワクチンの意義及び健康教育、情報伝達に関する研究

厚生労働科学研究医薬品・医用機器等レギュレトリーサイエンス総合研究事業ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究(主任研究者 神谷 齊)の分担研究として、基礎疾患を有する小児に対する予防接種のあり方に関する研究と、AND 調査に関する検討を実施した。また、2008 年 4 月実施の麻疹風疹に関する定期予防接種制度を伝達するために、今回新たに定期予防接種の対象となった者ならびに一般国民に対する情報伝達手段として、麻疹に関する教育啓発用 DVD を作成し、HP 上に公開すると共に、作成した DVD を希望のあった自治体、保健所、医療機関、教育機関等に配布した。

[岡部信彦、宮崎千明(福岡市立西部療育センター)、栗屋豊(聖母病院小児科)、多屋 馨子、山本(上野)久美、佐藤 弘]

12. 海外在留邦人のワクチン接種および罹患状況に関する調査

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者：尾内一信)の一環として実施された、在留邦人を対象に実施されたワクチンの接種時期と種類に注目したアンケート調査結果の集約および解析に技術的支援を行った。

[重松美加]

・病原体等の研究

1. インフルエンザウイルスの排出期間に関する研究

インフルエンザ患者の解熱後における感染性ウイルスの排出を調査した。インフルエンザウイルス診断キットで陽性であった小児の咽頭拭い液を急性期および解熱後採取し、MDCK 細胞によるウイルス分離を行った。抗ウイルス薬の使用、ワクチン接種の有無等の点から解析する予定である。

[荒木和子、秋山千枝子(あきやま子どもクリニック)、多屋馨子]

2. インフルエンザウイルスの検出法ならびに検出部位に関する臨床的検討

厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「ウイルス感染

症の対外診断薬の再評価に関する基盤整備に関する研究」(主任研究者 山口一成)の分担研究者として、2007 年 2 月~2008 年 3 月(2 シーズン)に、山口内科耳鼻咽喉科でインフルエンザと診断した患者から鼻咽頭(鼻甲介、上咽頭、中咽頭)拭い液を採取し、病初期におけるインフルエンザウイルスの増殖部位に関して検討した。RT-PCR 法を用いて、インフルエンザウイルスゲノムの検出を行い、型と亜型を決定した。また、リアルタイム PCR 法を用いて、検出部位毎にウイルス量を定量した。

また、国内で市販されているインフルエンザ迅速診断キットの感度を比較検討した。

[浜本いつき、山口展正、多屋馨子、荒木和子、佐藤弘、藤本嗣人、岡部信彦]

3 .OPV 初回投与後の糞便中から検出されたポリオウイルス 2 型株にみられたゲノム変異

OPV 由来株によるポリオ(VAPP)はワクチン株が生体内で増殖中に起きたゲノム変異によるとされている。そこで、健康な小児における、ワクチン株のゲノム変異を調べた。OPV 接種した 1 歳 5 ヶ月男児の糞便を 35 日間経時的に採取し、血清型別ポリオウイルスの排出は real-time PCR により調べた。このうち接種後 3, 6, 8, 10, 20 日の便を対象とし、ブラッククローニング法により各日 10 株、計 50 株の 2 型ウイルスを得た。RD 細胞で 1 代のみ継代後、RNA を抽出し逆転写酵素反応により cDNA を作成した。ウイルスゲノムの 5 箇所(5'NC-VP2, VP3-VP1, 2A-2C, 2C-3C, 3D)の各々約 1000bp から 2000bp を PCR で増幅後シーケンスを行い、変異を調べた。

[荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

4 .成人麻疹および新生児麻疹の検査室診断

2007 年 3~6 月にかけて発生した麻疹患者(疑い含む)の検査室診断を実施した。成人例および母子感染が疑われた新生児麻疹患者について麻疹ウイルスの遺伝子検出・塩基配列の解読、抗体検出を行った結果、すべての患者から麻疹ウイルス遺伝子が検出され、それらは近年流行している遺伝子型 D5 に近縁であった。

[佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

5. C型肝炎ウイルス(HCV)複製に関与する宿主因子の同定と機能解析

HCVの複製及び感染性に重要であるNS3と結合する宿主因子を単離した。本因子は免疫沈降法によりNS3と直接的な結合が認められ、両者の結合領域を決定した。本因子のノックダウンによる細胞内HCV複製の阻害効果が得られた。また、JFH1株を導入したヒト肝癌細胞内の本因子をノックダウンしたところ、感染性のHCV RNA量および培養上清中に放出されるウイルス量の抑制が認められた。

[浜本いつき、村上恭子(ウイルス第二部)、勝二郁夫(神戸大学大学院医学系研究科)]

6. アデノウイルスによる咽頭結膜熱の大規模流行要因に関する研究

2003~2006年にアデノウイルス3型による咽頭結膜熱の全国流行が発生した。その要因はこれまで明らかでなかった。そこで、流行アデノウイルスのヘキソン領域について調査した。その結果、2003年の咽頭結膜熱流行時から、これまで流行していなかったアデノウイルスの遺伝子タイプ(Ad3x)が流行していることが明らかになった。このウイルスは1998~1999年に韓国で咽頭結膜熱の大規模流行を引き起こしたウイルスと同じ遺伝子配列を持っていることが明らかになった。

[藤本嗣人、浜本いつき、谷口清州、近平雅嗣(兵庫県立健康環境科学研究所)、岡部信彦、渡邊香奈子(新潟県衛生研究所)、岩切章(宮崎県衛生環境研究所)]

7. 高速PCR法によるウイルス検査システムの開発

2008年度から開始する超高速PCRシステムのウイルス検査への適用のための予備実験を実施した。

[藤本嗣人、小長谷昌未(トラスト)、坪井邦雄(トラスト)、谷口清州、浜本いつき、児玉崇(トラスト)、近平雅嗣(兵庫県立健康環境科学研究所)、榎本美貴(兵庫県立健康環境科学研究所)、岡部信彦]

8. エンテロウイルス遺伝子診断法における市販RNA抽出キット選択の影響に関する研究

遺伝子診断法を行う際に利用される市販のウイルスゲノム抽出キットの選択が、結果に関与する可能性に関して

は、ほとんど報告が見られない。そこで、RT-PCR法によるエンテロウイルス遺伝子の増幅を、市販の複数のウイルスゲノム抽出用のカラム法キットで実施して結果を比較した。結果、キットの選択によりその結果が異なるものとなる事例があることがわかった(感染症誌 82: 55~57, 2008)。

[宗村 徹也、藤本 嗣人、近平 雅嗣(兵庫県立健康環境科学研究所)、木村 博一、西尾 治、吉田 弘、岡部 信彦、辻 勉(星薬大)]

9. エンテロウイルス71の塩基配列に関する研究

重症事例から採集したエンテロウイルス71株の塩基配列を調べた。3'UTR領域について全塩基配列を決定した。

[宗村 徹也、藤本 嗣人]

10. 急性胃腸炎患者からの検体についての病原ウイルス遺伝子の検出及び遺伝子型の確定

(1)伊勢原及び大阪から、また秋田県玉川温泉で発生したノロウイルスによる急性胃腸炎患者の便検体からのノロウイルス遺伝子の検出及び遺伝子型解析を行った。

(2)三重県のカキ養殖海域から採取したカキ及び海産プランクトンからのノロウイルス遺伝子の検出及び遺伝子型解析を行った。

[松野重夫、斎藤 博之(秋田県健康環境センター)、村上裕子、岡部信彦]

11. 急性気管支肺炎乳幼児から検出されたRSウイルス(RSV)の分子疫学に関する研究

Respiratory Syncytial ウイルス(RSV)は、乳幼児の気管支炎や気管支肺炎の主たる病原ウイルスとしてよく知られている。しかし、本ウイルスの分子疫学には不明な点が多い。そこで、2005~2006年にかけて、入院加療を必要とした神奈川県在住の気管支炎乳幼児患者から分離されたRSV17株のNucleoprotein(N)遺伝子に関する分子疫学解析を行った。その結果、10株はSubgroup A、7株はSubgroup Bに分類された。また、

各 Subgroup 間の N 遺伝子の塩基配列のホモロジーは高く(99%以上)、遺伝学的に近縁な RSV が本疾患に関与していたことが推定された。

[菅井和子(国立病院機構横浜医療センター、塚越博之(群馬県衛生環境研究所)、水田克巳(山形県衛生研究所)、木村博一、秋山美穂、岡部信彦、野田雅博(ウイルス3部)、田代真人(同)]

12. 川崎病患者における好中球接着分子発現に関する研究

川崎病(KD)における血管炎は、冠動脈瘤形成などに大きな役割を果たすことが示唆されている。また、KD 患者の血管炎の病態には好中球や炎症性サイトカインが深く関与することは示唆されている。そこで、KD 患者の好中球接着分子(CD11b/CD18)発現ならびに血清サイトカインのプロファイリングを行った。その結果、KD 急性期においては、有意な好中球の CD11b 発現の増強と血清中の炎症性サイトカイン(IL-6、G-CSF)濃度の増加が見られた。また、これらの変化は、治療薬のγグロブリンの投与により速やかな改善が見られることもわかった(Kobayashi T., et al., Clin Exp Immunol, 148(1): 112-118, 2007)。[小林徹(群馬大学小児科)、井上佳也(同)、森川昭廣(同)、木村博一]

13. 群馬県の麻疹ウイルスの分子疫学に関する研究

2006/07 シーズンにおいて、主に関東地区を中心に比較的大きな麻疹の流行が発生した。そこで、群馬県で検出された麻疹ウイルスの N (nucleoprotein) 遺伝子に関する分子疫学解析を行った。その結果、群馬県を含む関東地域で検出されたほとんどの麻疹ウイルスの遺伝子型は D5 型で、非常に遺伝学的に相同性が高いことが明らかになった(Morita Y et al., Jpn J Infect Dis, 60(6): 402-404, 2007)。

[森田幸雄(群馬県衛生環境研究所)、加藤政彦(同)、小澤邦壽(同)、野田雅博(ウイルス第三部)、多屋馨子、安井良則、岡部信彦、木村博一]

14. 活性酸素種を含む電解水によるウイルス等の微生物除去・殺滅法の開発に関する研究

活性酸素種(ヒドロキシラジカルなど)を含む電解水によるインフルエンザウイルスやネコカリシウイルス(ノロウイルスの代用ウイルス)に関する新規かつ効果的な除去・殺滅法の開発を行った。

[小澤邦壽(群馬県衛生環境研究所)、森田幸雄(同)井関正博(三洋電機株式会社)、鈴木大輔(同)、木村博一]

15. カキのノロウイルス汚染と食中毒事件発生に関する疫学的解析

内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「生食用カキに起因するノロウイルスリスク評価に関する研究」(主任研究者 西尾治)により、平成 19 年度に群馬県および山口県で発生した食中毒事例について疫学解析を行った。カキ関連事例以外の患者及び従業員から検出された Genogroup II の遺伝子型はすべて GI/4 であり、人から人への感染の可能性が示唆された。

[木村博一、西尾治、西田知子(山口県環境保健研究センター)、岡本玲子(同)、吉澄志摩(北海道立衛生研究所)、森田幸雄(群馬県衛生環境研究所)、荒川美果(栃木県保健環境センター)]

16. 輸入食肉の E 型肝炎ウイルス汚染状況調査に関する研究および群馬県における野生イノシシおよび肥育豚の E 型肝炎ウイルス感染状況

厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業「輸入生鮮魚介類および動物生肉のウイルス汚染のサーベイランスに関する研究」(主任研究者 西尾治)により本研究を実施した。群馬県内の野生イノシシおよび肥育豚の HEV の浸潤状況を把握する目的で、血清中の抗 HEV IgG 抗体検査および HEV 遺伝子検査を実施したところ野生イノシシおよび肥育豚は一定頻度で HEV を保有していることが判明した(Sakano C et al., J Vet Med Sci in press)。[坂野智恵子(群馬県衛生環境研究所)、塩野雅孝、森田幸雄、小沢邦壽、信澤敏夫(群馬県食肉衛生検査所)、壁谷英則(日本大学)、丸山総一、木村博一]

17. 輸入食品のウイルス汚染状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業「輸入生鮮魚介類および動物生肉のウイ

ルス汚染のサーベイランスに関する研究」(主任研究者 西尾治)により、二枚貝のウイルス汚染状況を調査し、安全性を評価するための基礎データの蓄積を目的とした。主に中国、韓国から輸入された二枚貝などについて、ノロウイルス、A型肝炎ウイルスの汚染状況を調べた。中国産二枚貝に汚染度が高い傾向が認められた。HAVはすべて陰性であった。

[西尾治、田中俊光(千葉市食品衛生検査所)、木村博一、秋山美穂、菊池正悟(愛知医科大学公衆衛生学)]

18. 腸管病原性大腸菌(EPEC)の研究

55株のtypical EPECについて、BFP線毛の発現に関与する遺伝子*perA*・*perC*・*bfpF*の保有状況と3型分泌機構に関連するcontact hemolysis活性を調べた。

自己凝集能の強い*bfpA*-HMA型2、3、6はすべて陽性であった。凝集能がない4株のうち2株はこれらの遺伝子を保有していなかった。しかし、残りの2株と*bfpA*-HMA1、4、5型で自己凝集能の弱い株はすべての遺伝子を保有していた。また、自己凝集能とcontact hemolysisの結果は一致していた。自己凝集能の低下はバンドリンの構造そのものか、両者の発現に関与する*per*遺伝子の変異が原因として考えられる。

[飯田真里子、伊藤健一郎、Orn-Anong

Ratchtrachenchai(タイ国保健衛生研究所)、山崎貢(愛知県)、八柳潤(秋田県)、岡村登(東京医科歯科大学)]

19. 海外渡航下痢症患者から分離された大腸菌の病原性関連遺伝子保有状況

海外渡航者下痢症患者由来大腸菌の下痢病原性大腸菌病原遺伝子(LT、ST、VT、*invE*、*eae*、*aggR*、*astA*、*afaD*)保有状況を調査した。名古屋検疫所中部空港検疫所支所において患者189人から直採管で採便した。主な旅行先は東南アジアであった。

病原性は未解明の“*astA*単独保有大腸菌”が50人で最も多く、EPEC(47人)、EAggEC(25人)、EPEC(7人)、DAEC(5人)であった。29人は複数のカテゴリーの下痢病原性大腸菌に感染していた。EAggECは旅行者下痢症の原因菌とされているが、それを裏付けていた。海外渡航者の下痢症検査に大腸菌を入れる必要があると思われた。

[伊藤健一郎、重松美加、飯田真里子、熊谷則道(名古屋検疫所中部空港検疫支所)、一戸邦彦(同)、久世敏輝(同)、吉澤慎悟(同)、原田誠(名古屋検疫所)、橋本迪子(同)]

20. 腸管凝集性付着性大腸菌(EAggEC)の研究

EAggEC(*aggR*陽性)について病原性関連遺伝子を調べた。最近報告された*hdaA*を含め4種類の線毛遺伝子を対象とした。日本分離株28株、海外渡航者57株、タイ国分離7株と標準2株の96株を調べた。*hdaA*が31.3%(O86:H27等)、*aafA*(17.7%、O126:H27やO44:H18)、*agg3A*(3.1%)、*aggA*(11.5%)であった。残りの36.5%のうち日本の主要な血清型O111:H21と海外渡航者由来のO127:H21はclump形成能が強く、*aggB*(*invasin*)を保有しており、バリエーションであることが予想された。長期保存株では*aggR*陰性コロニーが高率にあった。

[伊藤健一郎、Orn-Anong Ratchtrachenchai(タイ国保健衛生研究所)、山崎貢(愛知県)、成松浩志(大分県)、倉園貴至(埼玉県)、蛭田徳昭(横須賀市)、森屋一雄(佐賀県)、上野伸広(鹿児島県)、野田裕之(山梨県)、熊谷則道、橋本迪子(中部空港)]

21. 2類感染症の発生状況とリスクファクターに関する研究

赤痢を中心に、コレラ、腸チフス・パラチフスについて、国内事例発生の際に、改訂した標準化喫食調査票、行動調査票を活用し九州・山口地区19自治体で、積極的疫学調査を行った。

平成19年の赤痢の国内発生数は147例で大半がソネ菌であった。そのうち集団事例が少なくとも4件あった。一つは学生実習に使用した菌によるものであった。9月の調査開始後の九州・山口地区の事例は1例のみで、標準調査票による調査は行われなかった。

食品汚染状況について文献調査を行った。わが国を含め先進工業国では食品から赤痢菌が分離されることは極めて稀だが、赤痢が蔓延している途上国では、食品から菌分離の報告が相当数あった。

[伊藤健一郎、飯田真里子、多田有希、松崎充宏(日本海事検定協会食中毒チーム)、九州山口地区19自治体担当者、岡部信彦]

サーベイランス業務

・感染症発生動向調査事業の実施および情報の還元

1. 感染症発生動向調査（患者情報）全国データの集計・解析・還元

平成 11 年 4 月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成 15 年 11 月改正法施行、平成 17 年 4 月改正法施行、平成 19 年 4 月・6 月改正法施行)に基づき、対象疾患を診断した医師、保健所、地方感染症情報センター（都道府県、政令市に設置）と連携し、感染症発生動向調査を実施している。

感染症情報センターは中央感染症情報センターとして、全数把握疾患及び週単位定点把握疾患については毎週 1 回、月単位定点把握疾患については毎月 1 回、全国データを集計し、各自治体に還元している。また、データの内容の確認及び解析を行い、感染症週報（IDWR）や病原微生物検出情報（IASR）として情報を公開するとともに、得られた情報を地方自治体と連携して必要な感染症対策へつないでいる。

[多田有希、安井良則、島田智恵、佐藤 弘、中里篤、加藤信子、大竹由里子、松岡静香、柴崎伸子、前田明日香、FETP 研修生 8&9 期生、松井一乃、中島一敏、砂川富正、大山卓昭、岡部信彦]

2. 感染症週報の作成・発行

平成 11 年 4 月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成 15 年 11 月改正法施行、平成 17 年 4 月改正法施行、平成 19 年 4 月・6 月改正法施行)の主旨のもとに、感染症週報の発行を継続しており、当感染症情報センターのホームページ上に PDF 版と HTML 版とで掲載している。

感染症週報には「発生動向総覧」以外に、「注目すべき感染症」としてその時々で問題となる感染症を 1~2 件取り上げ、詳細な解説を行い、「病原体情報」として、その時々で問題となる感染症の患者からの病原微生物検出状況を掲載している。

また、「速報」においては、主に地方衛生研究所から投稿される、国内で問題となったアウトブレイクに関する最新の記事、個々の疾患の発生動向のまとめなどを掲載し、成田空港検疫所の協力で「海外感染症情報

のコーナーを設けて、最新の海外感染症に関する記事を紹介し、「感染症の話」においては所内外の協力を得て、感染症法に規定された疾患、あるいはそれ以外の疾患も取り上げて解説を行い、「読者のコーナー」においては、外部からの問い合わせのあった質問や投稿などを多くの読者にも公開している。

[岡部信彦、多田有希、安井良則、島田智恵、森兼啓太、佐藤弘、谷口清州、多屋馨子、山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、石井俊也（成田空港検疫所）、大竹由里子、松岡静香、加藤信子、中里篤、柴崎伸子、前田明日香、FETP 研修生 8 期&9 期生、松井一乃、中島一敏、砂川富正、大山卓昭、山本（上野）久美]

3. 病原体情報の収集と月報・年報の作成

病原微生物検出情報事務局において、病原体情報センター業務として、オンラインによる報告票の確認、問い合わせ、データベースの管理、集計解析、月報および年報の作成、配布に関する一連の作業を継続的に実施した。

(1) 情報処理：NESID の病原体検出情報システムに登録された新しいデータの確認と公開処理を毎日行なった。2007 年 1 月 - 2007 年 12 月の病原体検出報告数は、病原菌検出報告（3A：地研・保健所）は 8,313 件、病原体個票は病原菌が地研・保健所 3,525、検疫所 1,044 件、ウイルス（リケッチア、クラミジアを含む）が地研 16,050 件、検疫所 11 件、集団発生病原体票は病原菌が地研 208 件、検疫所 15 件、ウイルスが地研 876 件、ヒト以外からの病原体検出票は病原菌が地研 300 件、ウイルスが 6 件であった。

(2) 月報の編集：本年度中に病原微生物検出情報月報が 12 号（第 28 巻）および第 28 巻索引が編集・印刷発行された。特集記事については英訳を行い同時に掲載した。

(3) 年報の編集：病原体情報に関する年報は、欧文による 2003 年年報を、Japan J. Infect. Dis., 2004 Vol.57 Supplement として編集・発行した。

(4) 感染性腸炎研究会に参加する都市立感染症指定医療機関が入力した感染性腸炎患者調査票 1,085 件についてデータの確認と集計を行ない、年度末の総会資料および感染症学会発表資料として提供した。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、野地元子、徳永真

里子、岡部信彦]

4. インターネット等による病原体情報の提供

(1) 「病原微生物検出情報 (IASR)」ホームページに、印刷版と平行して毎月 HTML 版の病原微生物検出情報月報を国内外に提供した。また、病原体名、疾病名から検索できる月報特集記事索引を毎月更新して掲載した。

(2) 病原体情報報告機関に対して、迅速に情報を還元するために、毎日 NESID の病原体検出情報システムに登録された新しいデータの確認と公開処理を行ない、還元情報速報閲覧と定型帳票ダウンロードのページを更新した。

(3) オンラインで随時報告されるデータの追加・変更を反映させた速報グラフと集計表および累積データに基づく統計表とグラフを IASR ホームページに掲載した (NESID の病原体検出情報システムで作成される定型帳票のグラフと集計表については毎日更新)。

(4) 地方衛生研究所などから提供された速報記事を随時 IASR ホームページに掲載した。

(5) 地研からの病原体個票によるインフルエンザウイルス分離報告を集計し、日本の週別型別分離数データとして WHO の FluNet へのアップロードを流行期間中毎週行った。

(6) 地研からの集団発生病原体票によるノロウイルス集団発生事例報告を、流行期間中毎週集計し、グラフ・集計表とともに速報として IASR ホームページに掲載した。

(7) 地研からの病原体個票による麻疹ウイルス分離・検出報告を集計し、グラフとともに速報として随時 IASR ホームページに掲載した。

(8) 地方衛生研究所と検疫所の検査情報担当者メールアドレスを更新し、毎月の予定やシステム運用の連絡、ウイルス第三部から地研への連絡、FluNet・ノロウイルス速報・麻疹ウイルス速報更新のお知らせなどウイルス担当者や細菌検査担当者への情報提供を行った。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真理子、野地元子、加藤信子]

5. インフルエンザ流行レベルマップの作成

感染症発生動向調査により得られた全国のインフルエンザ患者発生動向を、過去の患者発生状況をもとに設けられた基準値に基づいて解析し、保健所ごとに警報レベル、注意報レベルを超えたことを情報還元するための「インフルエンザ流行レベルマップ」を作成し、毎週火曜日に感染症情報センターのホームページ上にアップデートした。コメント欄には、最新の患者発生状況と病原体情報から得られたインフルエンザウイルス分離結果を合わせて掲載している。2007 年度は 2006/2007 年シーズンに含まれる 2006 年第 14 週～第 32 週、2007/2008 年シーズン中の 2006 年第 45 週～2007 年第 13 週までのインフルエンザ流行レベルマップ作成を行った。

[安井良則、柴田博子、多田有希、谷口清州]

・感染症発生動向調査のシステムに関する業務

「感染症の患者の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく、感染症発生動向調査は、1999 年 4 月の法制定以降、厚生労働行政総合情報システム (WISH) 上に構築され運用されていたが、システム稼働後の法改正に未対応の部分がある等の課題があったことから、再構築することとされた。システムの方向性・概要については、検討するため立ち上げられた「発生動向調査システム開発事業評価委員会 (委員長: 谷口清州)」により示された。NESID システムは、一部システムを除き、2006 年 4 月に稼働開始された。システムでは、中央データサーバーに、感染症発生動向調査 (患者情報及び病原体検出情報) にとどまらず、疑い症例調査支援、症候群サーベイランス、感染症流行予測調査、インフルエンザ関連死亡、インフルエンザ施設別発生状況、さらに結核登録者情報に関する複数のシステムが統合され、一元的に管理されている。

2005 年度にはこの新システムの開発に当たり、具体的な技術的支援を行ったが、2006 年度以降は、システム稼働後の改良点の検討を継続して行うとともに、法改正等に伴って必要となった改修に関わっている。

(1) 感染症発生動向調査 (患者情報) システム

2006 年 4 月から運用開始した感染症発生動向調査システムのうち、感染症発生動向調査 (患者情報) では、厚生労働省、システム開発会社とともに、法改正等に

よる対象疾患の追加・変更や保健所の統廃合など関連した改修事項について、適宜対応している。また、システム稼働開始後に発生した問題点や改善すべき点（通信速度が遅い、全国集計に時間を要する、保健所の登録・修正を地方感染症情報センターが迅速に把握する機能がない、届出様式に応じた入力作業ができないものがある、取得データの内容が不十分など）について検討し、可能な限り順次改修を行った。今後も改良すべき点、その解決方法を検討・実行していく。

[多田有希、安井良則、加藤信子、島田智恵、中里篤、松岡静香、大竹由里子、柴田博子、谷口清州、神谷信行(東京都健康安全センター)、瀬岡陽子(東京都健康安全センター)、池田一夫(東京都健康安全センター)]

(2) 病原体検出情報システム

2006年5月6日に運用開始した病原体検出情報サブシステムは、前年後に引き続きまだ不具合が発生しているため、逐次プログラム修正の検証を行なっている。また、新しい病原体や型別に対応するため、随時コードの追加・変更を行って、最近の情報の収集・還元・公開を可能にしている。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、野地元子]

(3) 感染症流行予測調査システム

感染症流行予測調査システムが稼働して2年目となり、データ入力、集計、検索など一連の作業が滞りなく行われた。一方で、データ入力(登録、修正)について各自治体より担当者の作業時間の負担を軽減するための改善を望む声も多く、今後の課題として他の電子ファイルからの流用なども考慮したシステムの改善を検討していく。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子]

・感染症に関する情報収集・発信業務

1. 各種疾患別情報および新着情報などのインターネットホームページへの掲載、更新、維持

感染症発生動向調査の各種集計および解析結果、時系列グラフ、地図グラフをホームページ上に掲載し、定期的に更新、維持管理を行った。各種疾患別情報および新着情報、およびインフルエンザ様疾患発生報告のページについても内容を検討し、HTMLファイル等

の作成、維持管理を行った。

[大竹由里子、松岡静香、柴崎伸子、前田明日香、安井良則、森兼啓太、島田智恵、多田有希、加藤信子]

2. 海外感染症情報の収集と評価

WER(WHO)、MMWR(米国CDC)、Eurosurveillance Weekly(EU)、Health Protection Report(英国)、Health Protection Scotland Weekly Report(スコットランド)、Communicable Disease Intelligence(豪州)、あるいは、その他種々のウェブページ上での感染症情報を収集・評価し、必要な情報を関係機関に提供した。

[岡部信彦、多田有希、安井良則、島田智恵、FETP研修生8期&9期生、浜本いつき、菅原民枝、森兼啓太、大山卓昭、砂川富正、中島一敏、松井一乃、大日康史、谷口清州、多屋馨子]

3. 感染症流行時の情報発信

感染症情報センターのホームページ上にはフォーカスのコーナーがあり、話題となる感染症や大きく流行して国民に大きな影響を及ぼす可能性のある感染症についての情報提供を行っている。2007年度にはインフルエンザのコーナーにおいて異常行動の情報を提供し、またインフルエンザ流行レベルマップの更新情報を掲載した。鳥インフルエンザのコーナーでは、WHOのホームページに掲載されている情報を日本語訳して掲載し、またその他の情報についても提供を行った。2007年に10代、20代を中心に流行した麻疹については、国内の流行状況に関する情報、対策のための各種ガイドライン、Q&A、麻疹発生データベース、麻疹が全数把握疾患となったことに伴う届け出基準・様式の変更等、様々な情報の提供を行った。

[安井良則、多田有希、島田智恵、山下和予、松岡静香、大竹由里子、柴崎伸子、前田明日香、加藤信子、森兼啓太、佐藤弘、山本(上野)久美、多屋馨子、大日康史、菅原民江、岡部信彦]

・感染症流行予測調査事業に関する業務

1. 感染症流行予測調査報告書の作成

厚生労働省健康局結核感染症課及び感染研関係各部と共同で、平成17年度(2005年度)報告書を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、山本(上野)久美、北本理恵、谷口無我、牧下大和、荒木和子、浜本いつき、岡部信彦]

2. 感染症流行予測調査結果速報の発信

平成19年度感染症流行予測調査のうち、インフルエンザ HI 抗体保有状況を2007年12月26日から2008年2月5日まで計3回、ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況を2007年7月12日から12月28日まで計18回、速報としてホームページ上に公開した。

[佐藤弘、多屋馨子、北本理恵、山本(上野)久美、荒木和子、岡部信彦]

3. 感染症流行予測調査実施要領の作成

厚生労働省健康局結核感染症課と共同で、平成19年度版を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、谷口無我、山本明史、山本(上野)久美、北本理恵、荒木和子、岡部信彦]

4. 感染症流行予測調査システムの運用

平成18年4月稼働した感染症流行予測調査システムの各自治体におけるデータ入力サポート、およびトラブルに対する調査、対応をおこなった。

また、集計を迅速におこない、一部をホームページに公開した。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

5. 事務局業務

厚生労働省健康局結核感染症課、都道府県、都道府県衛生研究所、感染研関係各部との密接かつ円滑な連携を保つための業務を行った。

[多屋馨子、佐藤弘、山本(上野)久美、北本理恵、荒木和子、岡部信彦]

. サーベイランス事業の支援

1. 院内感染対策サーベイランス事業の支援

厚生労働省事業として行われている「院内感染対策サーベイランス」を支援する、厚生労働科学研究費補助金「薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究」(主任研究者:細菌第2部・荒川宜親部長)の分

担研究班:「院内感染サーベイランスにおける解析結果の還元・提供に関する研究」および同分担研究班:「手術部位感染症における効果的な感染症発生動向の把握と感染症リスク因子解析に関する研究」に対して横断的に担当し、解析結果のフィードバックに関するアンケート調査や、入力支援・データ提出・解析・フィードバックの流れを一元的に管理できるソフトウェアの開発に参画した。

[森兼啓太、岡部信彦、荒川宜親(細菌第2部)、鈴木里和(同)、山根一和(同)、小西敏郎(NTT東日本関東病院)、針原康(同)、フィンガルリンク株式会社、徳本史郎(厚生労働省医政局指導課)、片岡穰(同)]

2. 国内院内感染症集団発生事例に対する調査支援

VRE 集団保菌事例(愛知県西尾市)

C. difficile 関連疾患集団発生事例(滋賀県蒲生郡)

[森兼啓太、FETP、谷口清州、岡部信彦]

3. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

中国 CDC が主催する北京オリンピックにおける症候群サーベイランスの実施に関する国際会議に参加した。

[岡部信彦、大日康史]

. 感染症情報の収集、評価及び予防対策の策定

1. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

世界保健機関により行われている国際保健規則(IHR)の改正に関連して、その条文を技術的に検討し、また作業部会において IHR2005 における core capacity requirement についての議論を行った。またバイオテロ対策やパンデミック対策において、G7+メキシコの GHSAG の会議に参加し、技術的な支援を行った。また政府間調整会議で議論を行った。ASEAN+3 における新興感染症プロジェクト、あるいは GHSAG のリスクコミュニケーション会議に参加し、国際的な対応計画の策定に協力した。

[砂川富正、重松美加、森兼啓太、松井珠乃、上野久美、大日康史、多田有希、安井良則、谷口清州、岡部信彦]

2. 生物学的製剤に起因する感染症に関する安全性関

連情報収集業務

移植片、輸血、タンパク製剤など生物由来の医療関連材料によると考えられる感染症を、早期に把握し、情報提供することにより、健康被害の拡大を防ぐことを目的とした情報収集と、そのためのシステム構築し、実施に向けた最終調整を行った。昨年度までに遡り検索した文献情報のデータベースと2005年9月以降の前向き収集した評価済み情報データベースの維持を行った。また、2007年度の報道機関ニュースと、各国および国際的機関の公式情報を毎日、国内外の文献情報を定期的に収集し、生物学的製剤に関連を検討評価し、データベースに蓄積した上で、事務局として、生物学的製剤由来感染症評価検討委員会へ提出し、その調査、対応の緊急性を評価し、感染症研究所として科学的見知からコメントし、関係諸機関へ報告した。既存の情報検索および蓄積・検索データベースのシステムの改良と、よりよい検出アルゴリズム開発のために開始した。

[谷口清州、重松美加、多屋馨子、柴田博子、岡部信彦、渡邊治雄（副所長）]

3. 鳥インフルエンザの世界的流行汎アジア的発生に対する情報収集とヒト流行への予防的対策

2003年未からアジアで発生している鳥インフルエンザ（H5N1）に関して、WHO や OIE（国際獣疫事務局）より発信された情報を整理し、随時日本語に翻訳し情報センターのホームページに掲載し、国民の情報ニーズに対応した。並行して、日本で鳥インフルエンザからのヒトでのパンデミック発生に備えた対応計画のための情報収集と指針作成を行った。

[森兼啓太、砂川富正、中島一敏、大山卓昭、FETP8期&9期、大竹由里子、柴崎伸子、前田明日香、谷口清州、岡部信彦]

4. インフルエンザパンデミック対策

アジア各国での H5N1 亜型ウイルスの感染を受け、パンデミックのフェーズ4以降についても国家対策が必要となり、厚生労働省の新型インフルエンザ対策行動計画の改定とガイドラインの作成が行われた。この過程の議論に参加し、科学的な支援を行った。また、これに伴う感染症法上の新型インフルエンザの取り扱

いの変更などの検討について、国際情勢の情報収集と提供、サーベイランスシステムの準備などを行った。また、個人および一般家庭・コミュニティ・市町村、事業者・職場などの各種の設定における指針の改定および作成に、新型インフルエンザ対策専門家会議委員として協力した。

[安井良則、砂川富正、中島一敏(4-5月)、森兼啓太、山本(上野)久美、多屋馨子、大日康史、谷口清州、岡部信彦、]

5. インフルエンザ流行期におけるインフルエンザ総合対策（強化サーベイランス、電話、メール問い合わせおよびウェブ情報の提供）

インフルエンザのQ & Aを提供した。医療従事者およびそれ以外からの要望がある情報も掲載した。インフルエンザホットライン業務を12月から3月までの平日日中時間帯に実施した。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、重松美加、森兼啓太、松岡静香、多田有希、安井良則、大山卓昭、砂川富正、FETP 研修生8期&9期]

国際協力関係業務

. 国際的調査協力及び支援

1. ASEAN+3 EID programme に対する技術支援

ASEAN+3 における Emerging Infectious Disease program に対して、3回の会議に出席し、報告書のとりまとめや感染研の貢献について技術協力をを行った。
[谷口清州、岡部信彦、渡邊治雄（副所長）]

2. GHSAG に対する技術支援

G7 国とメキシコによる、Global Health Security Initiative の技術的な WG である、GHSAG に対して、各国における調査や戦略の樹立について日本の立場から議論に参加し、技術支援を行った。また 2007 年 9 月 24、25 日に京都において early detection に関するワークショップを開催した。

[森兼啓太、安井良則、砂川富正、松井珠乃、重松美加、谷口清州、岡部信彦、Nigel Collier(国立情報学研究所)、牧野友彦(厚生労働省厚生科学課)]

3. WHO に対する技術的支援

WHO あるいはその地域事務所の活動に関して、GOARN 会議、その他の国際会議へ出席やガイドラインの作成について、技術的支援を行った。

[森兼啓太、砂川富正、中島一敏、松井珠乃、重松美加、谷口清州、多屋馨子、多田有希、岡部信彦]

4. インドネシア FETP との交流および同国におけるサーベイランス強化支援

国際医療協力研究委託事業「感染症アウトブレイクに対する効果的な国際協力のあり方に関する研究」の費用を用いて、2008 年 9 月より再開が予定され、同国内外において活躍が期待されるインドネシア FETP との交流を行った。具体的には、インドネシア大学（ジャカルタ）およびガジャマダ大学（ヨグヤカルタ）に設置される同プログラムを訪問し、日本との比較、課題について協議した。さらに支援を具体化すべく、バンテン州タンゲラン郡を訪問し、同地域におけるサーベイランスについて情報を収集し、問題点を協議した。

[砂川富正、村上仁（国立国際医療センター）]

・国際研修

1. 海外からの来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国立国際医療センター海外研修生、JICA 留学生、各国保健医療および政府関係者などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、予防接種、鳥インフルエンザを含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての研修、病原体情報の説明、情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、大日康史、重松美加、森兼啓太、大山卓昭、砂川富正、中島一敏、山下和予、多田有希、多屋馨子]

2. 海外からの来所者への国立感染症研究所と地方衛生研究所の協力に関する説明

JICA 留学生、各国保健医療および政府関係者などの来所時に感染症対策に関する地方衛生研究所と国立感染症研究所の役割および協力について研修した。

[藤本嗣人、岡部信彦]

研修業務

・感染症危機管理およびそれに関わる人材養成（実地疫学専門家養成プログラム）に関する業務

1. 全般実施状況

FETP の実施は 9 年目となり、平成 19 年 4 月、9 期生 6 名（池田雄史、掘成美、吉田真紀子、杉下由之、土田賢一）を迎えた。平成 20 年 3 月には 8 期生 3 名（五十嵐正巳、高橋亮太、徳田浩一）が研修終了した。また平成 13 年度から継続して Dr. John Kobayashi（Washington University, 米国）に長期コンサルタントを依頼し、感染症疫学研究、地方自治体との積極的疫学調査など人材養成体制が充実した。

2. 感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力

平成 19 年度において、実地疫学専門家養成プログラム（FETP）は、以下の感染症集団発生事例に対して、地方自治体からの要請を受けて調査協力を行った。

- 施設内麻疹集団発生（東京都練馬区）
- 施設内 VRE 集団発生事例（埼玉県入間郡）
- 施設内病原性大腸菌 O157 感染症集団発生事例（東京都西東京市）
- 施設内百日咳集団発生事例（高知県南国市）
- 施設内 VRE 集団発生事例（愛知県西尾市）
- 施設内クロストリジウム菌感染症集団発生事例（滋賀県蒲生郡）
- 施設内麻疹集団発生事例（東京都千代田区）

3. 研修活動

FETP のトレーニングの一環として、初期導入研修前期（John Kobayashi；4 月）初期導入研修後期（John Kobayashi, Enrique Tayag；7-8 月）とともに、国際的な感染症サーベイランス（Angela Merianos；11 月）分子疫学の最新情報および実用法（Lee Riley；1 月）予防接種対象疾患の予防対策（Harry Hull；2 月）に関するセミナーを開催した。

4. 教育研修経験

教育経験のための研修として、全国感染症危機管理

研修会での講義、地方自治体の感染症危機管理研修会（秋田県、東京都、神奈川県、岡山県等）での講義・討論をおこなった。

5. 感染症疫学研究

平成19年度に研修終了した8期生が以下の長期プロジェクト研究発表をおこなった。

同時に論文作成し、国立保健医療科学院健康危機管理分野特別論文として提出して、公衆衛生学修士(MPH)を所得した。

「男性淋菌感染症に関する性感染症定点サーベイランス評価」五十嵐正巳

「レプトスピラ症の診断と報告に関する研究」高橋亮太

「腸管出血性大腸菌の家族内二次感染防止に関する研究」徳田浩一

6. 感染症サーベイランス活動

毎週ごとに収集されるサーベイランス報告対象疾患の情報を監視・解析し、必要に応じて地方自治体とともに公衆衛生的介入を実施した。

腸管出血性大腸菌感染症サーベイランスに対する情報交換・還元

レジオネラ症の発生動向

性感染症の発生動向に基づいた提言

ウエストナイル熱に関する他国の状況についての注意喚起と提言

麻疹症例増加に対する予防接種推奨、等

7. 感染症情報の還元

感染症サーベイランス、感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力などで得られた情報を病原体検出情報（月報）感染症週報などを通じて一般住民、公衆衛生従事者などに還元した。また、インフルエンザ流行時期（10月～3月）には、一般住民からのインフルエンザに関する問い合わせ、公衆衛生・医療関係者からの予防接種対象疾患（麻疹など）鳥インフルエンザ等に関する問い合わせに対応した。

[岡部信彦、FETP 8期&9期、感染症情報センタースタッフ一同]

. 感染症危機管理研修会

感染症情報センターが事務局を務め、平成9年度より定期的実施している感染症危機管理研修会を9月27日、28日に開催した。2007年度の事務局は、谷口清州、重松美加、長壁美智子が担当した。研修内容として、「国の健康危機管理体制について～改正国際保健規則（IHR2005）総論～」 「感染症法改正と新型インフルエンザ対策」 「改正国際保健規則（IHR2005）と地域健康危機管理について」 「医療法改正に伴う地域での院内感染対策について」 「薬剤耐性菌感染症の最近の動向（新型耐性菌 と強毒型 *C.difficile*）」 「旧日本陸軍病院のカルテに記されたスペイン風邪の検証」 「Risk communication とは」 「危機発生時におけるメディア対応心得」 「新型インフルエンザに関する拡大伝播モデル」 「沖縄県北部地区における麻疹流行時の対策」 「東京都教育委員会における麻疹流行への対応」 「宮崎県におけるレプトスピラ症発生事例に対する実施疫学調査」 「宮崎のH5N1亜型鳥インフルエンザアウトブレイク」 感染症集団発生時の疫学調査に関するケーススタディ演習等を行った。全国の感染症担当部局、保健所、衛生研究所から100数十名の受講者があった。

[感染症情報センター一同]

. 国立保健医療科学院による研修

1. 新興再興感染症技術研修

国立保健医療科学院による特定研修新興再興感染症技術研修を、平成19年9月10日から9月14日まで国立感染症研究所村山庁舎で行った。地方衛生研究所あるいは保健所において食中毒ウイルス検査業務に従事する専門職員を対象として、食中毒ウイルスの新しい知識及び検査技術の習得を目的としている。受講生は、保健所9名・地方衛生研究所9名の合計18名であった。本研修は感染症情報センターをはじめとして、感染研関連各部室、群馬県衛生環境研究所の協力を得て遂行された。[木村博一、伊藤健一郎、秋山美穂]

2. 細菌コース

国立保健医療科学院による特定課程細菌コースを、平成19年11月12日から11月30日まで、最初の2

週間を保健医療科学院で、最後の1週間を感染症研究所村山庁舎で行った。地方衛生研究所あるいは保健所において細菌検査業務に従事する初級者を対象として、細菌学の体系的な理解と新しい知識及び技術の習得を目的としている。遺伝子検査を初めて保健医療科学院の実習室で行った。保健所9名・地方衛生研究所21名の合計30名であった。本研修は感染症情報センターを初めとして、感染研関連各部室、名古屋検疫所、東京都安全健康研究センター、神奈川県衛生研究所、岡山県環境保健センター、海事検定協会の協力を得て遂行された。

[伊藤健一郎、木村博一、飯田真里子]

・その他の研修の実施

1．希少感染症診断技術向上事業に関する業務

平成19年度は対象疾患として、百日咳、クリプトスポリジウム、インフルエンザ、フラビウイルス、深在性真菌症、麻疹、病原性大腸菌、下痢症ウイルス、結核、病原体管理・輸送チクングニヤ、E型肝炎、日本紅斑熱、多剤耐性緑膿菌、ジフテリア、マラリア、結核、インフルエンザ、狂犬病の検査法・ワクチン、感染症法改正後の病原体管理が取り上げられた。研修会は平成19年2月、当感染研で2日間、全国の地方衛生研究所の技術担当者を対象に二日間開催され、76地研、約105名が参加した。それぞれの疾患はウイルス第一部、ウイルス第二部、細菌第二部、ウイルス第三部、寄生動物部、生物活性物質部、昆虫医学部、感染症情報センター、ハンセン病センター、結核研究所等の協力により行われた。[山本(上野)久美、多屋馨子、藤本嗣人、岡部信彦、倉根一郎(ウイルス第一部)]

2．インフルエンザ研修

厚生労働省血液対策課主催都道府県インフルエンザワクチン担当者会議において、インフルエンザの疫学的動向について、研修を実施した。

[多屋馨子]

3．NBC災害・テロ対策研修

厚生労働科研「テロに対する医療体制の充実および評価に関する研究」(分担研究者 岡部信彦)により、

DMAT 研修を終了した医療機関職員に対するパイオテロ対策の研修マテリアルを作成し、研修会の講師をつとめた。

「松井珠乃、砂川富正、岡部信彦」

4．留学生の研修

ベトナム国立衛生疫学研究所(NIHE)から東京大学へ留学中の Nguyen Minh 氏を長期受け入れし、ベトナムにおける地区毎の10年間のインフルエンザサーベイランスの疫学曲線の作成及び地理情報システムを活用したマップ作成を行った。同国での症候群サーベイランスの可能性についての検討も行った。

[大日康史]

5．医師卒後研修

国立感染症研究所で開催された医師卒後研修の一貫として、予防接種～麻疹・インフルエンザを主として～について説明した。2007.12.

[多屋馨子]

その他

・情報提供及び広報活動

1．電話、メールによる問い合わせ業務

予防接種、麻疹、風疹、ポリオ、人獣共通感染症、SARS、パンデミック、インフルエンザ、鳥インフルエンザ、下痢症ウイルス等、その他感染症に関する電話、メールによる問い合わせに対応した。一般からの電話相談が最も多く、特に、メディアで報道された場合、電話問い合わせが殺到した。医療従事者、自治体、保健所、メディア等を含めて、年間の問い合わせ件数は、研究者1人あたり、電話約500-1000件、メール約50-100件である。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、多田有希、安井良則、多屋馨子、佐藤弘、山本(上野)久美、藤本嗣人、松野重夫、伊藤健一郎、木村博一]

2．来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国内生徒、学生の修学旅行や社会見学などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動

向、国内および国際連携による感染症対策の現状、SARS を含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、砂川富正、中島一敏、多田有希、安井良則、多屋馨子、藤本嗣人]

3 . メディアへの対応

メディアからの問い合わせに対しては、通常は情報センター内に於いて問い合わせ内容別に担当者を決め、取材等に依頼に応じている。

平成 15 年 SARS 対応時には、メディアからの取材依頼殺到に応じるため、1 週間に 1 回定例として SARS に関し、行政発表とは異なった科学的視点からの解説、状況説明を行った。これをきっかけにメディア希望者に対して毎月 1 回、情報センター・メディア感染症情報交換会として、感染症情報の提供、解説、意見交換を行っている。話題として、病原体検出情報 (IASR) の特集を取り上げるほか、その都度のトピックスを取り上げている。また緊急的に伝え他の方がよいと考えられた時 (例: ウエストナイル熱本邦初発症例、国内パンデミック対策ガイドライン解説、麻疹流行状況など) には、臨時に開催し、コメントを出すようにしている。感染研としての公式発表ということではなく、あくまで情報センターからの科学的情報提供、としている。情報提供は主に感染症情報センター長および適時情報センタースタッフとしているが、IASR 特集のように感染研内部の担当専門者に依頼することもある。本会の登録者は 100 人以上となっており、Risk communication の一手段として、メディア側の協力も得て継続、実施している。

[岡部信彦、情報センタースタッフ一同]

・血清銀行に関する業務

1 . 血清の保管

感染症流行予測調査事業のため各都道府県において収集し用いた後の余剰血清のうち、国内血清銀行での保管の承諾が得られた血清を受け入れ、保管した。平成 19 年度に受け入れた血清は、計 3263 であった

[多屋馨子、荒木和子、谷口無我、山本明史、佐藤弘、山本 (上野) 久美、岡部信彦]

2 . 研究目的での血清の払い出し

使用申請があった 1 研究に対して計 1008 本の分与を行った。

[多屋馨子、荒木和子、谷口無我、山本明史、佐藤弘、山本 (上野) 久美、岡部信彦]

3 . 職員血清の保管

平成 19 年職員血清、計 481 本を受け入れ保管した。

[佐藤弘、谷口無我、荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

4 . 血清銀行保管血清の管理

上記 1 . 3 . で保管された血清の管理を行った。

[多屋馨子、荒木和子、谷口無我、山本明史、佐藤弘、新井 智、山本 (上野) 久美、岡部信彦]

・予防接種に関する業務

1 . 予防接種情報公開に関する業務

(1) 感染症情報センターHP 内に日本の予防接種スケジュール 2007 を公開した。

(2) 感染症情報センターHP 予防接種のページを更新した。

[多屋馨子、松岡静香、柴崎伸子、佐藤弘、山本 (上野) 久美、岡部信彦]

2 . 日本ワクチン学会に関する業務

ニュースレター事務局業務を行った。著者への連絡、原稿収集、ワクチン関連トピックスを担当し、その原稿を作成した。

[岡部信彦、多屋馨子]

・レファレンス業務

アデノウイルスレファレンスセンターとして難同定アデノウイルスの同定を行った。また、アデノウイルス分離用細胞を分与した。アデノウイルス検査法について検討し、地方衛生研究所の検査支援を行い、検査法の標準化に取り組んだ。

ノロウイルスレファレンスセンターでは 2006 ~ 2007 年シーズンに引き続き、2007 ~ 2008 年シーズンも全国の衛生研究所の協力のもとに、PCR 産物の提供を得て民間の会社に遺伝子解析を委託して調査を实

施した。

[岡部信彦、藤本嗣人、松野重夫、荒木和子、村上裕子]

・ 公的機関の委員

新型インフルエンザ専門家会議委員

[岡部信彦、森兼啓太、谷口清州、多屋馨子、安井良則、中島一敏、大日康史、山本(上野)久美]

ワクチンビジョン委員会

[岡部信彦、大日康史]

厚生労働省 予防接種健康被害認定部会/分科会

[岡部信彦(委員長)、多屋馨子(委員)]

厚生労働省 予防接種後副反応・健康状況調査検討会委員

[岡部信彦、多屋馨子]

厚生労働省 薬事・食品衛生審議会

[多屋馨子(専門委員)]

独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

[多屋馨子]

厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食中毒部会委員

[谷口清州]

・ 学校(大学、大学院等)における教育への参加

以下の教育機関より、非常勤講師、客員教授などの委嘱(併任、兼任)を受け、医学教育等への参加を積極的に行っている。

岡部信彦

- ・ 東京慈恵会医科大学客員教授(小児科講座、微生物学講座:非常勤講師)
- ・ 首都大学東京客員教授(大学院・国際保健学)
- ・ 東京大学非常勤講師(大学院医学系研究科・国際保健学)
- ・ 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師(公衆衛生学)
- ・ 名古屋大学非常勤講師(医学部感染症科)
- ・ 国立看護大学非常勤講師(感染症学)
- ・ 大阪市立大学非常勤講師(大学院医学研究科・医学部、公衆衛生学)
- ・ 共立薬科大学大学院非常勤講師(感染症学)
- ・ 京都大学医学部非常勤講師(感染病学)

- ・ 京都大学大学院医学研究科非常勤講師(国際保健学)
- ・ 東北大学医学部非常勤講師(感染症制御学)
- ・ お茶の水女子大非常勤講師(化学・生物総合管理の再教育講座)

谷口清州

- ・ 北海道大学大学院医学研究科非常勤講師(感染症学)
- ・ 聖母大学非常勤講師(国際保健)

多屋馨子

- ・ 東京慈恵会医科大学医学部非常勤講師(微生物学講座第一(臨床基礎医学ウイルスと感染(ワクチンの基礎と応用))
- ・ お茶の水女子大非常勤講師(化学・生物総合管理の再教育講座)

藤本嗣人

- ・ 東京大学大学院発達医学教室客員研究員(アデノウイルスの分子疫学)

木村博一

- ・ 群馬大学医学部講師(感染症学・ウイルス学)

安井良則

- ・ 大阪市立大学医学部非常勤講師(臨床検査医学(院内感染))

大山卓昭

- ・ 京都大学大学院社会医学系非常勤講師(環境科学『フィールド・エビデミオロジー』)
- ・ お茶の水女子大非常勤講師(化学・生物総合管理の再教育講座)

- ・ 大阪大学大学院医学系研究科非常勤講師(国際疾病疫学)

- ・ 東京医科歯科大学医学部医学科(公衆衛生実習)

- ・ 長崎大学熱帯医学研究所(長崎大学熱帯医学研修課程)

中島一敏

- ・ 大分大学医学部非常勤講師(微生物学講義)

大日康史

- ・ 大阪大学医学部非常勤講師(医療経済学)
- ・ 呉大学看護学部非常勤講師(医療経済学)
- ・ 大阪市立大学大学院医科学研究科非常勤講師(医

感染症情報センター

- 療経済学)
- ・ 岐阜大学大学院医学研究科非常勤講師 (医療経済学)

森兼啓太

- ・ 国立看護大学校非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 日本赤十字看護大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 北海道医療大学非常勤講師 (感染管理学)
- ・ 滋賀県立大学非常勤講師 (感染管理学)

松井珠乃

- ・ 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師 (公衆衛生学)

東京慈恵会医科大学医学部4年生、6年生の学外実習機関として学生教育実施

その他、医学部およびその他の医育機関の学生より見学研修の依頼を受け、実施している

検査実施状況

行政依頼検査に対応したほか、病院などからの不明病原体に対応した。麻疹流行時の検査等も実施した。

	行政	研究	合計
ウイルス分離同定	2	780	782
核酸・抗原検出	14	1200	1214
血清反応	0	14	14
合計	16	1994	2010

感染症情報センター

・ 研究員・研究生

氏 名	身 分	期 間	出 身
中村明子	客員研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京大学
金沢 保	客員研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	産業医科大学
押谷 仁	客員研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東北大学大学院
西尾 治	客員研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	元職員
John M. kobayashi	客員研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	ワシントン保健局
菅原民枝	流動研究員	H19. 4. 1- H19. 8.31	財団法人公衆衛生協会
浜本いつき	流動研究員	H19.4. 1- H20. 3.31	ヒューマンサイエンス振興財団
五十嵐正巳 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	自衛隊舞鶴病院
高橋亮太 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	陸上自衛隊
池田雄史 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	(独)国立病院機構南京都病院
田中好太郎 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	日本赤十字社医療センター
堀 成美 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	都立駒込病院
吉田眞紀子 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	市立堺病院
杉下由行 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京都福祉保健局
土田賢一 (FETP)	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	横浜市港南福祉保健センター
中瀬克巳	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	岡山市保健所
加來浩器	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東北大学大学院
田中 毅	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	成田空港検疫所
松永泰子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	元職員
藤井達也	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	三宿病院・自衛隊中央病院
逸見佳美	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	医療法人川久保病院
島田 靖	協力研究員	H19. 4. 1- H20.1.31	日本医科大学付属病院多摩永山病院
吉田英樹	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	大阪市保健所
森 伸生	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	森こども病院
齋藤章暢	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	埼玉県衛生研究所
増田和貴	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京都健康局
三村敬司	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	陸上自衛隊衛生学校
山口 亮	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	北海道庁石狩保健福祉事務所
森山和郎	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	大阪府健康福祉部地域保健感染症課
鈴木葉子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京女子医科大学東医療センター
松館宏樹	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	岩手県環境保健研究センター
森下高行	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	愛知県食品衛生検査所
松崎充宏	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	(社)日本海事検定協会
宗村徹也	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	横浜市食肉衛生検査所

感染症情報センター

飯田真里子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京医科歯科大学大学院
太田正樹	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	財団法人結核研究所
神垣太郎	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東北大学大学院
小林幹子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東北大学先進医工学研究機構
登坂直規	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京医科歯科大学
阿保 満	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京都健康安全研究センター
鷲見 宏	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	兵庫県健康生活部健康局
鈴木智之	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	群馬県感染症制御センター
田中幸江	協力研究員	H19. 4. 1- H19. 4.30	元職員
愛木智香子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	(財)日本冷凍食品検査協会
小林康人	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京サラヤ(株)
加藤由実	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京サラヤ(株)
Yafen Cheng	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	台湾 CDC
宮城裕人	協力研究員	H18.10. 1- H19. 3.31	聖マリア病院
隈下祐一	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	サラヤ(株)
野澤康平	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	三洋電機(株)
鈴木大輔	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	三洋電機(株)
井内田科子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	ベルギー王国大使館 ベルギー・フランダース政府 貿易投資局(科学技術)
Nguyen Minh	協力研究員	H19.8.1-H20.3.31	東京大学、ベトナム国立衛生疫学研究所
村上裕子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	
岡崎 薫	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	東京都立八王子小児病院
赤尾寿美子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	マニハ食品(株)
神谷 元	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	エモリー大学大学院
小長谷 昌未	協力研究員	H20. 3. 1- H20. 3.31	トラスト(株)
橋本 和宏	協力研究員	H20. 1. 1- H20. 3.31	トラスト(株)
古屋貴子	協力研究員	H19. 4. 1- H19.10.31	アフライト・ハイシステムズ・ジャパン(株)
植木由幸	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	(財)日本冷凍食品検査協会
楠田美和子	協力研究員	H19. 4. 1- H20. 3.31	サラヤ(株)
有田知子	協力研究員	H19. 6. 1- H20. 3.31	(独)日本スポーツ振興センター
川原林伸昭	協力研究員	H19. 10. 1- H20. 3.31	防衛省
吉田昌功	協力研究員	H19. 10. 1- H20. 3.31	防衛省
牧 隆之	協力研究員	H19. 10. 1- H20. 3.31	防衛省
川端利信	協力研究員	H19. 10. 1- H20. 3.31	防衛省
柏原 茂	協力研究員	H19. 10. 1- H20. 3.31	防衛省

発表業績一覧

. 誌上発表

1. 欧文発表

- 1) Ohkusa Y, Sugawara T. Application of an individual-based model with real data for transportation mode and location to pandemic influenza. *J Infect Chemother*, 13(6) : 380-389, 2007.
- 2) Kikuchi K, Ohkusa Y, Sugawara T, Taniguchi K, Okabe N : Syndromic Surveillance for Early Detection of Nosocomial Outbreaks. In : Daniel Zeng et al. ed. *Intelligence and Security Informatics : Biosurveillance* vol 4506 : 202-208. Berlin / Heidelberg : Springer, 2007 (June).
- 3) Taniguchi K, Hashimoto S, Kawado M, Murakami Y, Izumida M, Ohta A, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Nagai M : Overview of Infectious Disease Surveillance System in Japan, 1999-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S3-S13, 2007.
- 4) Ohta A, Murakami Y, Hashimoto S, Nagai M, Kawado M, Izumida M, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Taniguchi K : Epidemics of Influenza and Pediatric Diseases Observed in Infectious Disease Surveillance in Japan, 1999-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S14-S22, 2007.
- 5) Murakami Y, Hashimoto S, Ohta A, Kawado M, Izumida M, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Taniguchi K, Nagai M : Wide-area Epidemics of Influenza and Pediatric Diseases from Infectious Disease Surveillance in Japan, 1999-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S23-S31, 2007.
- 6) Kawado M, Hashimoto S, Murakami Y, Izumida M, Ohta A, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Taniguchi K, Nagai M : Annual and Weekly Incidence Rates of Influenza and Pediatric Diseases Estimated from Infectious Disease Surveillance Data in Japan, 2002-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S32-S41, 2007.
- 7) Izumida M, Nagai M, Ohta A, Hashimoto S, Kawado M, Murakami Y, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Taniguchi K : Epidemics of Drug-resistant Bacterial Infections Observed in Infectious Disease Surveillance in Japan, 2001-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S42-S47, 2007.
- 8) Hashimoto S, Kawado M, Murakami Y, Izumida M, Ohta A, Tada Y, Shigematsu M, Yasui Y, Taniguchi K, Nagai M : Epidemics of Vector-borne Diseases Observed in Infectious Disease Surveillance in Japan, 2000-2005. *Journal of Epidemiology*, 17 (supplement) : S48-S55, 2007.
- 9) Kawazoe A, Chanlekha H, Shigematsu M, Collier N : Structuring an event ontology for disease outbreak detection. *BMC Bioinformatics*, 9 (Suppl 3) : S8, 2008.
- 10) Watanabe C, Matsui T, Inaoka T, Kadono K, Miyazaki K, Bae M, Ono T, Ohtsuka R, Bokul A. Dermatological and nutritional/growth effects among children living in arsenic-contaminated communities in rural Bangladesh. *Journal of Environmental Science and Health, Part A : Toxic/Hazardous Substances and Environmental Engineering*, 42 : 1835-1841, 2007.
- 11) Inoue Y, Ono T, Matsui T, Miyasaka J, Kinoshita Y, Ihn H : Epidemiological survey of *Vibrio vulnificus* infection in Japan between 1999 and 2003. *J Dermatol*, 35(3) : 129-39, 2008.
- 12) Maeda H, Y. Ohkusa and K. Aihara, Effect of facility closure in the SEIR epidemic model, *Artificial Life and Robotics*, 12(1,2), pp.172-175, 2008
- 13) Editorial Committee of Findings of Infectious Agents in Japan : Annual Report on Findings of Infectious Agents in Japan, 2003. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 57(Suppl), 2004.
- 14) Tabara, K., Arai, S., Kawabuchi, T, Itagaki, A., Ishihara, C., Satoh, H., Okabe, N., Tsuji, M. Molecular survey of *Babesia microti*, *Ehrlichia* species and *Candidatus Neohrlichia mikurensis* in wild rodents from Shimane prefecture, Japan. *Microbiology and Immunology*. 51 : 359-367. 2007.
- 15) Arai, S., Song, J.-W., Sumibcay, L., Bennett, S. N., Nerurkar, V. R., Parmenter, C., Cook, J. A., Yates, T. L., Yanagihara, R. Hantavirus in Northern Short-tailed Shrew, United States. *Emerging Infectious Diseases*. 13 : 1420-1423. 2007.

- 16) Song, J.-W., Kang, H. J., Song, K. -J., Truong, T. T., Bennett, S. N., Arai, S., Truong, N. U., Yanagihara, R. Newfound hantavirus in Chinese mole shrew, Vietnam. *Emerging Infectious Diseases*, 13 : 1784-1787, 2007.
- 17) Song, J. -W., Gu, S. H., Bennett, S. N., Arai, S., Puorger, M., Hilbe, M., Yanagihara, R. Seewis virus, a genetically distinct hantavirus in the Eurasian common shrew (*Sorex araneus*). *Virology journal*, 4 : 114, 2007
- 18) Nomura T, Fujimoto T, Ebisutani C, Horiguchi H, Ando S : The first fatal case of Japanese spotted fever confirmed by serological and microbiological tests in Awaji Island, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 60 : 241-243, 2007
- 19) Fujimoto T, Shinohara M, Ito M, Okafuji T, Okafuji T, Nishio O, Yoshida H, Shimizu H, Chikahira M, Phan GT, Ushijima H : Detection of dual-infected cases of adenoviruses and coxsackieviruses type B by real-time PCR but not by the conventional viral culture technique. *Clinical Laboratory*, 53 : 605-609, 2007
- 20) Fujimoto T, Hamamoto I, Taniguchi K, Chikahira M, Okabe N : Molecular epidemiology of adenovirus type 3 detected from 1994 to 2006 in Hyogo Prefecture, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 61 : 143-145, 2008
- 21) Shimada A, Hayashi Y, Ogasawara M, Park M, Kato M, Minakami H, Kito T, Kojima S, Kawa-Ha K, Kimura H, Pro-inflammatory cytokinemia is frequently found in Down syndrome patients with hematological disorders. *Leukemia Research*, 31(9) : 1207-1211, 2007
- 22) Jha VC, Morita Y, Dhakal M, Besnet B, Sato T, Nagai A, Kozawa K, Kimura H. Isolation and genetic diversity of *Mycobacterium* spp. obtained from milking buffaloes and cows in Nepal. *Journal of Veterinary Medical Science*, 69(8) : 819-825, 2007
- 23) Shimada A, Taketani T, Kikuchi A, Hanada R, Arakawa H, Kimura H, Chen YY, Hayashi Y. AML1 mutation and FLT3-internal tandem duplication in leukemia transformed from Myelodysplastic syndrome. *Journal of Pediatric Hematology and Oncology*, 29 (9) : 666-667, 2007
- 24) Saitoh M, Kimura H, Kozawa K, Nishio O, Shoji A. Detection and phylogenetic analysis of norovirus in *Corbicula fluminea* in a freshwater river in Japan. *Microbiology and Immunology*, 51(9): 815-822, 2007
- 25) Goto T, Kimura H, Numazaki K, Akiyama M, Kato M, Noda M, Nozaki Y, Tanaka-Taya K, Taniguchi K, Yamagata T, Oogane T, Momoi YM, Okabe N. A case of meningoencephalitis associated with G1P [8] rotavirus infection in a Japanese infant. *Scandinavian Journal of Infectious Diseases*, 39 (11) : 1067-1070, 2007
- 26) Tsukagoshi H, Koketsu M, Kato M, Kurabayashi M, Nishina A, Kimura H. Superoxide radical (O₂⁻) scavenge effects from polymorphonuclear leukocytes and toxicity in human cell lines of newly synthesized organic selenium compounds. *FEBS J*, 274 (23) : 6046-6054, 2007
- 27) Morita Y, Suzuki T, Shiono M, Shiobara M, Saitoh M, Tsukagoshi H, Yoshizumi M, Ishioka T, Kato M, Kozawa K, Taya-Tanaka K, Yasui Y, Noda M, Okabe N, Kimura H. Phylogenetic analysis of nucleoprotein (N) gene in measles viruses prevalent in Gunma, Japan in 2007. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 60 (6) : 402-404, 2007
- 28) Morita Y, Kogure H, Sandoh M, Kawashima G, Sato Y, Nanba S, Shoda Y, Suzuki T, Shiono M, Shiobara M, Kato M, Kozawa K, Noda M, Okabe N, Kimura H. An Imported Dengue Fever Case by Dengue Virus 3 (DENV-3) Infection in Gunma, Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 61(1) : 90-92, 2008
- 29) Okazaki K, Kondo M, Kato M, Kakinuma R, Nishida A, Kimura H. Elevation of high mobility group box-1 (HMGB-1) concentration in asphyxiated neonates. *Neonatology*, 94(2) : 105-109, 2008.
- 30) Ikebe T, Hiraswa K, Suzuki R, Ohya H, Isobe J, Tanaka D, Katsukawa C, Kawahara R, Tomita M, Ogata K, Endoh M, Okuno R, Tada Y, Okabe N, Watanabe H. Distribution of *emm* genotypes among group A streptococcus isolates from patients with severe invasive streptococcal infections in Japan,

2001-2005. Epidemiol. Infect. 135, 1227-1229, 2007.

2. 和文発表

- 1) 谷口清州. 鳥インフルエンザの現状. 食と健康, 51(4): 50-59, 2007.
- 2) 谷口清州. 新型インフルエンザについて. 救急救命, 10(2): 12-15, 2007.
- 3) 谷口清州. 鳥インフルエンザウイルス感染症の世界的現状. 日本内科学雑誌, 96(11): 2386-2392, 2007.
- 4) 中島雪夫, 児玉和夫, 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州, 岡部信彦. 新型インフルエンザ対策のための症候群サーベイランスのテスト結果. 鳥根県医師会ニュース, 695: 20-24, 2007.
- 5) 中山裕雄, 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州, 岡部信彦. 外来受診時における症候群サーベイランスのための基礎的研究—1年間の運用実績—. 医療と社会, 16(4): 387-401, 2007.
- 6) 菅原民枝, 大日康史, 重松美加, 谷口清州, 村田厚夫, 岡部信彦. OTC(一般用医薬品)を用いての症候群サーベイランスの試み. 感染症学雑誌, 81(3): 235-241, 2007.
- 7) 杉浦弘明, 菅原民枝, 菊池清, 清水史郎, 児玉和夫, 堀江卓史, 大日康史, 谷口清州, 岡部信彦. 電子カルテを用いた自動運用の外来受診時症候群サーベイランスの稼動状況. 出雲でのノロウイルスとインフルエンザ流行の情報共有の実証実験. 鳥根医学, 27(2): 113-119, 2007.
- 8) 菅原民枝, 大日康史, 多屋馨子, 及川馨, 羽根田紀幸, 菊池清, 加藤文英, 山口清次, 吉川哲史, 中野貴司, 庵原俊昭, 堤裕幸, 浅野喜造, 神谷齊, 岡部信彦. ムンプスワクチンの定期接種化の費用対効果分析. 感染症学雑誌, 81(5): 555-361, 2007.
- 9) 大日康史, 菅原民枝. 実際の移動データを用いての individual based model のパンデミックへの応用. 『第3回生物数学の理論とその応用』京都大学数理解析研究所 数理解析研究所講義録, 1551: 11-16, 2007.
- 10) 大日康史, 杉浦弘明. 学校における大規模流行性疾患(インフルエンザ・麻疹等)に対する国立感染症研究所の役割と地域感染症サーベイランス調査について. けんこう, 35: 10-12, 2007.
- 11) 大日康史. 新型インフルエンザの感染シミュレーションと事業継続. 労働の科学, 62(9): 525-529, 2007.
- 12) 大日康史, 菅原民枝, 多屋馨子, 上野久美, 安井良則, 西藤なるお, 砂川富正, 岡部信彦. 麻疹発生DB(データベース)の評価. 病原微生物検出情報, 28(9): 255 - 266, 2007.
- 13) 大日康史, 菅原民枝. 医療・公衆衛生政策における生命価値の算定: 諸外国での実用例と日本での研究例. 日本リスク研究学会誌, 17(2): 57-64, 2007.
- 14) 大日康史, 菅原民枝, 山口清次. タンデムマス法を用いた新生児マススクリーニングの費用対効果分析. 日本マス・スクリーニング学会誌, 17(3): 27-34, 2007.
- 15) 大日康史. 症候群サーベイランスの意義と実際. 公衆衛生, 71(10): 845-848, 2007.
- 16) 高橋亮太. 海外における感染症の概況. 公衆衛生, 71(7): 548-551, 2007.
- 17) 徳田浩一. 腸管出血性大腸菌の家族内二次感染防止に関する研究. 国立保健医療科学院 健康危機管理分野 特別論文, 2008.
- 18) 高橋亮太. レプトスピラ症の診断と報告に関する研究. 国立保健医療科学院 健康危機管理分野 特別論文, 2008.
- 19) 五十嵐正巳. 男性淋菌感染症に関する性感染症定点サーベイランス評価. 国立保健医療科学院 健康危機管理分野 特別論文, 2008.
- 20) 阿保満, 鷲見宏, 松井珠乃. 茨城県南部の麻疹アウトブレイク調査. 公衆衛生, 71(8): 692-695, 2007.
- 21) 松井珠乃, 佐藤弘, 岡部信彦, 安藤秀二, 岸本寿男, 尹 浩信, 坂崎善門, 瀬戸山充, 成田博実. 熊本県, 宮崎県の皮膚科医におけるつつが虫病, 日本紅斑熱のサーベイランス認知度と, 2005年における診断・届出の現状. 日本皮膚科学会雑誌, 117: 1977-1979, 2007.
- 22) 松井珠乃. 2 疫学調査概論 3. 調査事例. 渡邊治雄 他(編). 食中毒予防必携 第2版, 46-52, 日

感染症情報センター

- 本食品衛生協会, 2007 .
- 23) 松井珠乃, 中島一敏, 大日康史, 菅原民江, 多屋馨子 . 熊本県内の病院における職員の麻疹予防対策の現状~2006年8月 . 感染症学雑誌, 82(1): 58-59, 2008 .
- 24) 浅尾香恵, 丸尾圭志, 吉野雄一郎, 小串葉月, 三宅大我, 尹 浩信, 松井珠乃: 落葉状天疱瘡から尋常性天疱瘡への移行例 . 西日本皮膚科, 70: 27-30, 2008 .
- 25) 森兼啓太, 針原康, 小西敏郎: JNIS システムによる結腸・直腸手術における SSI サーベイランス . 日本外科感染症学会雑誌, 4(1): 129-134, 2007 .
- 26) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランス . Medical Technology, 35(5): 493-497, 2007
- 27) 森兼啓太: 自施設の感染率とは . 感染対策 ICT ジャーナル, 2(2): 141-143, 2007 .
- 28) 森兼啓太: WHO の手指衛生キャンペーン . INFECTION CONTROL, 16(6): 495, 2007 .
- 29) 森兼啓太: サーベイランスデータの活用 . INFECTION CONTROL, 16(6): 546-555, 2007 .
- 30) 森兼啓太: 処置と消毒薬 . 調剤と情報, 13(7): 812-814, 2007 .
- 31) 森兼啓太: 2007 年アメリカ医療疫学学会 . Carlisle, 12(2): 11, 2007 .
- 32) 森兼啓太: SHEA の活動と SHEA2007 . 感染制御, 3(3): 205-210, 2007 .
- 33) 森兼啓太: 精神科病院で問題となる院内感染 . 日本精神科病院協会雑誌, 26(7): 685-690, 2007 .
- 34) 森兼啓太: MRSA の基礎講座 . エキスパートナース, 23(12): 48-51, 2007 .
- 35) 森兼啓太: インフルエンザ・今期はどうか? エキスパートナース, 23(15): 30-33, 2007 .
- 36) 森兼啓太: MRSA の監視培養と陽性者の隔離について . INFECTION CONTROL, 16(12): 1140-1148, 2007 .
- 37) 森兼啓太: APSIC と APSIC2007 . 感染制御, 3(5): 401-404, 2007 .
- 38) 森兼啓太: うがい・手洗い・消毒薬で感染症を予防 . セルフドクター, 11(3): 40-43, 2007 .
- 39) 森兼啓太: 感染症動向 2008 : ノロウイルス感染症 . メディカル朝日, 37(1): 60-63, 2008 .
- 40) 森兼啓太: 手術部位感染をめぐる話題や疑問 . グローバルレビュー感染防止, 2(3): 2-5, 2008 .
- 41) 森兼啓太: 新型インフルエンザの現状と対策 . Medical Technology, 36(2): 123-126, 2008 .
- 42) 森兼啓太: ドイツにおける感染対策 . 感染制御, 4(1): 11-16, 2008 .
- 43) 森兼啓太: H5N1 ウイルスの最近の流行状況 . インフルエンザ, 9(2): 119-125, 2008 .
- 44) 森兼啓太: IV . MRSA に関するガイドライン . 藤田直久(編集). ICTがおさえておきたいMRSA 対策のすべて . 222-230, メディカ出版, 2007 .
- 45) 森兼啓太(翻訳): サーベイランスのための CDC ガイドライン - NHSN マニュアル 2007 年版より . メディカ出版, 2008 .
- 46) 重松美加(翻訳): 成島悦雄, 宮下実, 村田浩一(編). 野生動物の医学 第6部第79章, 751-755, 文永堂出版, 2007 .
- 47) 安井良則: インフルエンザの最新の知識. 日本医工学治療学会機関誌, vol19, no3, 183-188, 2007 .
- 48) 安井良則, 岡部信彦: 鳥インフルエンザの疫学情報について 臨床とウイルス 35: 447-455, 2007 .
- 49) 安井良則: 2006/2007年のインフルエンザ流行の特徴 . インフルエンザ . 9 (1) 29-36, 2008 .
- 50) 多田有希: サーベイランス 患者サーベイランス . 公衆衛生, 71 (9): 51-55, 2007 .
- 51) 多田有希, 岡部信彦: わが国における感染症情報の収集と提供 - 感染症サーベイランス - . 小児外科, 39 (9): 1103-1107, 2007 .
- 52) 多田有希: 風疹 - 母親の妊娠 . 小児内科, 39 (10): 1745-1746, 2007 .
- 53) 多田有希: 風疹 - 授乳中の母親への接種 . 小児内科, 39(10): 1747-1748, 2007 .
- 54) 多田有希: 介入につながった実例 風疹・先天性風疹症候群対策 . 公衆衛生, 71(11): 40-52, 2007 .
- 55) 多田有希: 麻疹の流行について . 複十字, 316: 26, 2007 .
- 56) 木村幹男, 多田有希: 渡航者におけるワクチン接種の優先度 . 日本医事新報, 第4331号, 2007
- 57) 山下和予: 腸管感染症のすべて V - 1 . 感染症法改正とサーベイランス . 化学療法の領域 , Vol .

- 23, S-1 : 177-181, 2007 .
- 58) 山下和予:サーベイランス 病原体サーベイランス. 公衆衛生, Vol . 71, No . 10 : 854-858, 2007 .
- 59) 野田衛, 山下和予: ノロウイルス食中毒・感染症の現状と取組み - 2006年の早期流行と多発の要因. 食品衛生研究, Vol . 57, No . 11 : 9-18, 2007 .
- 60) 国立感染症研究所, 厚生労働省結核感染症課: 病原微生物検出情報 月報27巻4号-28巻3号, 2006-2008 .
- 61) 予防医学事業中央会「ヒト由来病原体の検出数(統計のペ - ジ)」予防医学ジャーナル, Nos . 424-435, 2007-2008 .
- 62) 多屋馨子: 能動免疫と受動免疫. 最新感染症ガイド .R-Book 2 0 0 6 (監修: 岡部信彦) RED BOOK 2006 27th Edition 翻訳日本版 . 1-54 . 日本小児医事出版社 . 2007 . 9 .
- 63) 多屋馨子: 臓器移植・免疫不全状態とウイルス感染の動態. 小児科学第3版(大関武彦, 近藤直実総編集). 702-706 . 医学書院 . 2008 . 4 .
- 64) 多屋馨子: 突発性発疹. 最新医学別冊, 血液5 潜伏感染ウイルスによる血液疾患新しい診断と治療のABC . (河敬世編集 .) pp158-163 . 最新医学社 . 2007 . 4 .
- 65) 多屋馨子: 咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病. 保護者に伝えたいこどもの病気・検査のポイント . 河野陽一編集 . pp112-115 . 中外医学社 . 2007 . 9 .
- 66) 岡部信彦, 多屋馨子: 予防接種に関するQ&A集 . 細菌製剤協会 . 2007 . 9 .
- 67) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 感染性胃腸炎と食中毒. 小児保健研究 . 67 巻 2 号 Page411-413(2008 . 03)
- 68) 多屋馨子: 風疹ワクチン. Virus Report . 4 巻 2 号 Page74-81(2007 . 11)
- 69) 古賀伸子, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 食中毒と感染症 ~ 保健所からみたノロウイルス感染症 ~ . 小児保健研究 . 67 巻 1 号 Page165-167(2008 . 01)
- 70) 多屋馨子: インフルエンザワクチン. 小児看護 . 31 巻 1 号 Page35-42(2008 . 01)
- 71) 多屋馨子: NICU 入院中, 退院後のワクチン対策. 周産期医学 . 37 巻 12 号 Page1605-1611(2007 . 12)
- 72) 多屋馨子: 2007 年の東京都における麻疹流行から学ぶこと. 東京小児科医会報 . 26 巻 2 号 Page5-10(2007 . 11)
- 73) 多屋馨子: インフルエンザの疫学. 小児科診療 . 70 巻 12 号 Page2179-2185(2007 . 12)
- 74) 多屋馨子: ヘルペスウイルス感染症. 薬事 . 49 巻 11 号 Page1653-1658(2007 . 10)
- 75) 多屋馨子: 【予防接種 Q&A】わが国の風疹, 風疹ワクチンの歴史 . 小児内科 . 39 巻 10 号 Page1732-1736(2007 . 10)
- 76) 多屋馨子: 【予防接種 Q&A】風疹 効果 風疹抗体があっても風疹に罹患することがあるのでしょうか. 風疹 HI 抗体がどの程度あれば, 先天性風疹症候群の発生を防ぐことができるのでしょうか. 小児内科 . 39 巻 10 号 Page1754-1755(2007 . 10)
- 77) 多屋馨子: 【予防接種 Q&A】風疹 副反応 風疹ワクチンの副反応として気をつけておくものはあるのでしょうか. 小児内科 . 39 巻 10 号 Page1752(2007 . 10)
- 78) 多屋馨子: 【予防接種 Q&A】風疹 抗体価が低い場合 前回妊娠時の検査で風疹抗体価が低かったため産科医に風疹の予防接種を勧められました. 中学生のときに風疹の予防接種をしています. 再度風疹の予防接種を受けたほうがいいですか. 小児内科 . 39 巻 10 号 Page1750-1751(2007 . 10)
- 79) 多屋馨子: 【予防接種 Q&A】風疹 妊娠可能年齢の女性への接種 妊娠可能な年齢層の女性への接種時に注意すべきことを教えてください. 小児内科 . 39 巻 10 号 Page1749(2007 . 10)
- 80) 多屋馨子: 2007 年の麻疹流行と今後の対策. ファルマシア . 43 巻 8 号 Page803-808(2007 . 08)
- 81) 三田村敬子, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員

- 会:夏かぜの季節-プール熱に注意. 小児保健研究. 66 巻 4. Page595-596(2007. 07)
- 82) 多屋馨子:感染症の登園・登校基準. 小児科診療. 70 巻 5 号. Page767-772(2007. 05)
- 83) 多屋馨子:2012 年麻疹排除に向けて はじめに. 臨床と微生物. 34:1;2008 年 1 月号
- 84) 多屋馨子, 上野久美: [緊急特集]2007 年の麻疹流行の特徴と今後の麻疹対策. 小学写真ニュース. 8 22:2007. 7.
- 85) 多屋馨子:この春に流行した麻疹(はしか)と学校での麻疹対策. 日本学校保健会会報「学校保健」268 号 2007 年 9 月発行
- 86) 多屋馨子:インフルエンザを予防しよう. 中央労働災害防止協会編 安全衛生の広場. 13112: 2007. 12.
- 87) 多屋馨子:「感染症動向 2007」 麻疹、風疹. メディカル朝日 2008. 1.
- 88) 山本(上野)久美, 岡部信彦: 特集 わが国における急性脳炎・脳症「1. 日本の急性脳炎・脳症発生状況」小児科, 48: 381-389, 2007
- 89) 山本(上野)久美: アウトブレイク 海外 カンボジアにおけるポリオ予防接種キャンペーン. 公衆衛生, 345-349, 2007. 4
- 90) 山本(上野)久美: アウトブレイク 海外 タイにおけるボツリヌス症集団発生と日本の抗毒素供給支援. 公衆衛生, 599-603, 2007. 7
- 91) 山本(上野)久美, 多屋馨子, 岡部信彦: 麻疹をめぐる最近の動向. 月刊保団連, 944: 41-44, 2007
- 92) 山本(上野)久美, 多屋馨子: 2007 年麻疹流行と国を挙げた“麻疹排除計画”. 週刊医学会新聞第 2748 号, 2007 年 9 月 17 日
- 93) 山本(上野)久美, 多屋馨子: 予防接種 Q&A 「風疹の現状と問題点」. 小児内科. 39(10): 1737-1740, 2007 予防接種 Q&A 「風疹の現状と問題点」
- 94) 新井 智, 田中政宏, 岡部信彦, 井上智. ワクチン接種による狂犬病の流行阻止効果. 日本獣医公衆衛生学会誌 60: 377-382. 2007.
- 95) 佐藤弘, 多屋馨子: [予防接種 Q&A] 風疹 効果 ワクチンを受けても免疫ができないことがあるのでしょうか. 小児内科. 39 巻 10 号 Page1753(2007. 10)
- 96) 佐藤弘, 多屋馨子: [予防接種 Q&A] 風疹 既往が不明な場合 中学生の娘ですが風疹にかかったかどうかはつきりしません. ワクチンの接種はどのようにしたらよいでしょうか. 小児内科. 39 巻 10 号 Page1743-1744(2007. 10)
- 97) 佐藤弘, 多屋馨子: [予防接種 Q&A] 風疹 必要性 妊娠しない男子への風疹の予防接種はなぜ必要ですか. 小児内科. 39 巻 10 号 Page1741-1742(2007. 10)
- 98) 宗村徹也, 藤本嗣人, 近平雅嗣, 木村博一, 西尾治, 吉田弘, 岡部信彦, 辻勉: エンテロウイルス遺伝子診断法における市販 RNA 抽出キット選択の影響. 感染症学雑誌, 82: 55-57, 2008.
- 99) 藤本 嗣人: アデノウイルス感染症の診断—免疫クロマトキットを中心に. Sysmex Journal 30: 31-37, 2007.
- 100) 吉田茂, 藤本嗣人: エンテロウイルス 71 による脳炎および中枢神経合併症について. 病原微生物検出情報, 28: 342-344, 2007.
- 101) 隈下祐一, 加藤由美, 高本一夫, 古田太郎, 西尾治, 木村博一: ノロウイルス代替のネコカリシウイルスおよび各種微生物に有効なエタノール製剤の開発. 日本防菌防黴学会誌, 35(11), 725-732, 2007.
- 102) 森田幸雄, 藤田雅弘, 斎藤美香, 塚越博之, 星野利得, 加藤政彦, 小澤邦寿, 西尾治, 木村博一: LightCycler[®]を用いたノロウイルス遺伝子検出法の検討. 日本食品微生物学会誌, 24(4), 183-188, 2007.
- 103) 大内好美, 田中千香子, 横井一, 秋山美穂, 木村博一, 野田雅博, 田代真人: 市販ウイルス保存液およびスワブ採取キットの評価. 臨床とウイルス, 36 (1), 61-64, 2008.
- 104) 岡部信彦: 感染症法と感染症サーベイランス感染症診療ガイドライン P 3-10 編集・船田久 永井書店 2007,4.
- 105) 岡部信彦: ウイルス感染症の診断・治療・予防. 発疹性ウイルス感染症と院内感染対策. 日本病院薬剤師会雑誌 43: 497-499. 2007,
- 106) 岡部信彦: サーベイランスからみたインフルエンザの流行状況. 獣医畜産新報(JVIM) 2007,

- 60(5) : 362-364 .
- 107) 岡部信彦 : 症状から食中毒を疑う . 調剤と情報, 13(7) : 808-810 2007 .
- 108) 岡部信彦 (監修・分担) : 日本版 Red Book – 最新感染症ガイド . 編集・米国小児科学会, 日本小児医事出版社 2007 . 9 .
- 109) 岡部信彦 (編集) : 小児感染症学, 診断と治療社 2007 . 9 .
- 110) 岡部信彦 : 感染症概論 P . 2-8 小児感染症学 (編集・岡部信彦) . 診断と治療社 2007 . 9 .
- 111) 岡部信彦 : ポリオ根絶計画とその問題点 . 感染症 . 37(5) , 174-178 , 2007 .
- 112) 岡部信彦 : 疾患・治療概念の最近の変化「ノロウイルスの台頭」. JIM . 17(8) : 660-662 , 2007 .
- 113) 岡部信彦 : 鳥インフルエンザウイルス発生の世界的現状 . Medico , 38(9) : 307-310 , 2007 .
- 114) 岡部信彦 : 予防接種の現状と対策 – 予防接種健康被害救済制度 – . 治療学, 41(10) : 1033-1036 , 2007 .
- 115) 岡部信彦・岩崎恵美子 (監修) : 新型インフルエンザ対策におけるリスクの管理とコミュニケーション . 診断と治療社 2007 . 11 .
- 116) 岡部信彦 : 感染症発生動向調査 (感染症サーベイランス) に見る最近のわが国のウイルス感染の状況 . 薬事 . 49(11) : 1629-1633 , 2007 .
- 117) 岡部信彦 : 感染症法の改正 . 感染制御 . 3(6) : 501-506 , 2007 .
- 118) 岡部信彦 : 新型インフルエンザのパンデミック対策 – 鳥インフルエンザから新型インフルエンザ発生への危惧と準備の必要性 . 小児科診療 . 70(12) : 2229-2234 , 2007 .
- 119) 岡部信彦 : わが国におけるインフルエンザの疫学臨床検査 52(1) : 23-27 , 2008 .
- 120) 岡部信彦 : 最近の国内外における麻疹の疫学状況と麻疹排除の動き . 臨床と微生物 . 35(1) : 003-009 , 2008 .
- 121) 高橋亮太, 岡部信彦 : 海外における感染症の概況公衆衛生 . 71(7) : 548-551, 2007 .
- 122) 高山直秀, 崎山 弘, 岡部信彦 : 改正結核予防法 2005 年施行後の全国 BCG ワクチン累積接種率調査 . 日本小児科学会雑誌 . 111(8) : 1042-1044, 2007 .
- 学会発表**
- 1 . 国際学会**
- 1) Taniguchi K : NIID contribution to International effort for emerging diseases. WHO-Tohoku university joint forum. Sendai, Japan, 2007.4.
 - 2) Taniguchi K : Infectious Disease Surveillance and Bioterrorism-related activities in Japan. US-Japan Biodefence symposium. Washington D.C., USA, 2007.6.
 - 3) Taniguchi K : Options for pandemic situation : Japanese perspective. Korea-China-Japan Pandemic symposium. Seoul, South Korea, 2007.9.
 - 4) Taniguchi K : Pandemic surveillance in Japan. WHO informal consultation for pandemic surveillance. Geneva, Switzerland, 2007.12.
 - 5) Morikane K, Konishi T, Harihara Y, Nishioka M, Kobayashi H : Evaluation of the risk index for colon and rectal operations in the surgical site infections surveillance system in Japan. The 17th annual scientific meeting of the Society for Healthcare Epidemiology of America. Maryland, USA, 2007.4.
 - 6) Morikane K : Surgical site infection surveillance in Japan. The 3rd Congress of Asia Pacific Society of Infection Control. Kuala Lumpur, Malaysia, 2007.7.
 - 7) Ohkusa Y, Sugawara T : Experimental Fully Automatic Syndromic Surveillance in Japan. The sixth annual International Society for Disease Surveillance Conference. Indiana, USA. 2007.10.
 - 8) Sugawara T, Ohkusa Y, Sugiura H, Kodama K, Horie T, Kikuchi K, Taniguchi K, Okabe N : Construction of automatic syndromic surveillance for early detection of bioterrorism attack. The 6th International Health Economics Association World Congress. Copenhagen, Denmark, 2007. 7.
 - 9) Shigematsu M, Gaudiosa JA, Ando S, Sugiyama K : Self assessment questionnaire tool for facility biosecurity. Asia Conference on Laboratory Biosafety and Biosecurity. Bangkok, Thailand, 2007.4.
 - 10) Ando S, Shigematsu M, Sakata A, Sugiyama K : Survey of Public Health Laboratories in Japan. Asia

- Conference on Laboratory Biosafety and Biosecurity. Bangkok, Thailand, 2007.4.
- 11) Collier N, Kawazoe A, Shigematsu M, Taniguchi K, Jin L, McCrae J, Dien D, Hung Q, Takeuchi K, Kawtrakul A: Ontology-driven influenza surveillance from Web rumours. Options for the Control of Influenza VI. Toronto, Canada, 2007.6.
 - 12) Shigematsu M, Taniguchi K, Okabe N: Introduction to the System of Combined National Surveillances for Early Detection. The sixth Annual International Society for Disease Surveillance Conference. Indiana, USA. 2007.10.
 - 13) Collier N, Kawazoe A, Doan S, Shigematsu M, Taniguchi K, Jin L, McCrae J, Chanlekha H, Dien D, Hung Q, Nam VC, Takeuchi K, Kawtrakul A: Detecting Web Rumours with a Multilingual Ontology-Supported Text Classification System. The sixth annual International Society for Disease Surveillance Conference. Indiana, USA. 2007.10.
 - 14) Shigematsu M, Caskey S, Gaudiosa JA, Ando S: Biosecurity self-assessment tool trial run in Japan. 3rd Asia-Pacific Biosafety Association Conference. Bangkok, Thailand, 2008.3.
 - 15) Ando S, Shigematsu M, Shimasaki N, Ikebe T, Obuchi M, Terashima J, Sugiyama K, Sata T: Problem and Confusion of Infectious Substance Transport in Japan. 3rd Asia-Pacific Biosafety Association Conference. Bangkok, Thailand, 2008.3.
 - 16) Arai, S. Analysis of the full-length L segment of Prospect Hill virus, a prototype north American Arvicolid rodent-borne Hantavirus. Honolulu, Hawaii, USA. Annual Biomedical Sciences Symposium, University of Hawaii. March 13, 2007.
 - 17) Arai, S. A phylogenetically distinct Hantavirus in the short-tailed shrew (*Blarina brevicauda*) in the United States. Honolulu, Hawaii, USA. Annual Biomedical Sciences Symposium, University of Hawaii. March 13, 2007.
 - 18) Arai, S., Nerurkar, V. R., Song, J. W. and Yanagihara, R. Analysis of the full-length L segment of Prospect Hill virus. Honolulu, Hawaii, USA. The VII International Conference on HFRS, HPS and Hantaviruses. Buenos Aires, Argentina. June 13-15, 2007.
 - 19) Arai, S., Sumibcay, L., Song, J. W., Yates, T., Bennett, S. N., Nerurkar, V. R., Parmenter, C., Cook, J., and Yanagihara, R. A Phylogenetically Distinct Hantavirus in the Short-Tailed Shrew (*Blarina brevicauda*) in the United States. The VII International Conference on HFRS, HPS and Hantaviruses. Buenos Aires, Argentina. June 13-15, 2007.
 - 20) Arai, S., Sumibcay, L., Song, J. W., Yates, T., Ohdachi, S. D., Truong, N. U., Parmenter, C., Cook, J., Truong, T. T., DeRisi, J. R., Nerurkar, V. R., and Yanagihara, R. Search for Novel Insectivore-Borne Hantaviruses. The VII International Conference on HFRS, HPS and Hantaviruses. Buenos Aires, Argentina. June 13-15, 2007.
 - 21) Arai, S., Sumibcay, L., Bennett, S. N., Song, J. W., Nerurkar, V. R., Parmenter, C., Cook, J., Yates, T. and Yanagihara, R. Phylogenetically Distinct Hantaviruses in *Sorex cinereus* and *Sorex monticolus* in the United States. 56th Annual Meeting of American Society of Tropical Medicine and Hygiene. Philadelphia, Pennsylvania, USA. November 4-8, 2007.
 - 22) Kyoko Murakami, Ikuo Shoji, Itsuki Hamamoto, Tetsuro Suzuki, Tatsuo Miyamura, and Takaji Wakita. Virological characterization of HCV JFH-1 strain in B-lymphocytes. 14th International Symposium on Hepatitis C Virus & Related Viruses, Glasgow. 2007
 - 23) M. Iida, K. Ito, N. Okamura, Localized adhesion-related gene bfpA polymorphism and microcolonization ability of typical enteropathogenic *Escherichia coli*. ASM 107th General Meeting, 2007.5.21-25. Toronto.
- ## 2. 国内学会
- 1) 谷口清州: 新型インフルエンザ(講演). 国立感染症研究所市民公開講座. 東京, 2007.4.
 - 2) 谷口清州: 新型インフルエンザの対応と世界各国の対応. 名古屋新型インフルエンザシンポジ

感染症情報センター

- ウム. 名古屋市, 2007.5.
- 3) 谷口清州: 感染症だより. 日本小児科学会東京都地方会. 東京, 2007.6.
 - 4) 谷口清州: 新型インフルエンザ対策の現状(講演). 千葉県小児科医会. 千葉, 2007.7.
 - 5) 谷口清州: インフルエンザとワクチンの使い方(講演). 第 380 回国際治療談話会例会. 東京, 2007.7.
 - 6) 谷口清州: 患者の早期探知と対応. 日本細菌学会関東支部会第 2 回シンポジウム. 東京, 2007.10.
 - 7) 谷口清州: 新型インフルエンザへの国内外の取り組み(講演). 日本農村医学会. 長岡市, 2007.10.
 - 8) 谷口清州: 感染症だより(講演). 日本小児科学会東京都地方会. 東京, 2007.10.
 - 9) 谷口清州: H5N1 鳥インフルエンザの現状. 日本小児感染症学会. 横浜, 2007.11.
 - 10) 谷口清州: 最近の新興再興感染症(講演). 日本検査同学院例会. 東京, 2007.11.
 - 11) 谷口清州: インフルエンザの最近の動向と広域流行対策(講演). 日本耳鼻科学会講習会. 名古屋, 2007.11.
 - 12) 谷口清州: 健康危機の Early Detection (早期探知). 第 21 回公衆衛生情報研究協議会研究会. 埼玉, 2007.1.
 - 13) 谷口清州: 院内感染の予防と対策(講演). 第 15 回三重外科系感染症フォーラム. 三重, 2008.3.
 - 14) 谷口清州: 麻疹排除計画と麻疹対策について(講演). 石川県医師会講演会. 金沢, 2008.3.
 - 15) 大日康史, 菅原民枝 他: 薬剤師学会院外処方箋情報を用いた外来受診時症候群サーベイランスの基礎的研究. 第 40 回日本薬剤師会学術大会. 神戸, 2007. 10.
 - 16) 大日康史, 菅原民枝, 奥村徹: 救急車搬送における症候群サーベイランスの実証的研究. 第 35 回日本救急医学会総会. 大阪, 2007. 10.
 - 17) 大日康史, 菅原民枝, 島内康宏 他: 水痘予防接種に対する公費補助制度の政策評価. 第 11 回ワクチン学会. 横浜, 2007. 12.
 - 18) 大日康史, 菅原民枝 他: 電子カルテを利用した院内感染早期探知 システム構築の試み. 第 81 回感染症学会総会. 京都, 2007.4.
 - 19) 大日康史, 菅原民枝, 山口清次: タンデムマス法を用いた新生児マスキングの費用対効果分析. マスキング学会. 千葉, 2007.9.
 - 20) 大日康史: 数理モデルによる感染症拡大シミュレーション. 21 世紀の診断工学とその周辺研究会. 統計数理研究所. 東京, 2007.9.
 - 21) 大日康史: 新型インフルエンザに関する拡大伝播モデル-パーソントリップデータを用いた新型インフルエンザのシミュレーション-(講演). 危機管理研修会. 東京, 2007.9.
 - 22) 大日康史: 新型インフルエンザに関する拡大伝播モデル. パースントリップデータを用いた新型インフルエンザのシミュレーション(講演). 横浜市新型インフルエンザ対策研修会. 横浜, 2007.12.
 - 23) 菅原民枝, 大日康史, 谷口清州, 岡部信彦 他: 地域での自動的な症候群サーベイランスシステムの構築. 第 81 回感染症学会総会. 京都, 2007.4.
 - 24) 菅原民枝, 大日康史, 谷口清州, 岡部信彦 他: 電子カルテを用いた感染症自動探知サーベイランスの実証実験と健康危機管理への応用. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 愛媛, 2007.10.
 - 25) 小野塚大介, 大日康史, 菅原民枝: 北部九州圏における新型インフルエンザ・シミュレーションと介入効果. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 愛媛, 2007.10.
 - 26) 菅原民枝: 電子カルテを用いた「症候群サーベイランス」による院内感染対策の検討. 第 45 回病院管理学会. 横浜, 2007. 10.
 - 27) 菅原民枝, 大日康史, 谷口清州, 岡部信彦: 新型インフルエンザを想定した外出自粛の選択の検討. 第 56 回日本感染症学会東日本地方会学術集会第 54 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京, 2007.10.
 - 28) 菅原民枝: 新型インフルエンザの感染伝播シミュレーション. GIS セミナー. 東京, 2008.1.
 - 29) 菊池清, 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州, 岡部信彦: 電子カルテを用いた院内感染早期探知サーベイランスの実用化. 第 56 回日本感染症学会東日本地方会学術集会第 54 回日本化学療法学会東

感染症情報センター

- 日本支部総会合同学会. 東京, 2007.10.
- 30) 重松美加: バイオテロとパンデミックの時代の感染症. 炎症制御治療フォーラム千葉 - 2007. 千葉, 2007.7.
- 31) 重松美加: リスクコミュニケーションってなに? (講演). 静岡県感染症及び食中毒処理合同研修会. 静岡, 2007.7.
- 32) 重松美加: 病原体の譲渡と輸送(講演・実技指導). 平成 19 年度地域保健総合推進事業「健康危機管理における地方衛生研究所の広域連携システムの確立」九州ブロック技術研修会. 宮崎, 2007.12.
- 33) 重松美加: 病原体の譲渡と輸送(講演・実技指導). 平成 19 年度地域保健総合推進事業「健康危機管理における地方衛生研究所の広域連携システムの確立」中国四国ブロック技術研修会. 岡山, 2008.1.
- 34) 重松美加: 病原体の譲渡と輸送(講演・実技指導). 「感染症法と輸送に関するワークショップ」関東・甲信・静ブロック研修会. 東京, 2008.2.
- 35) 重松美加: 病原体の譲渡と輸送(講演・実技指導). 「改正感染症法と輸送に関するワークショップ」北海道・東北・新潟ブロック研修会. 仙台, 2008.3.
- 36) 太田晶子, 村上義孝, 橋本修二, 川戸美由紀, 永井正規, 泉田美知子, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討(第1報) 警報システムに基づく流行の観察. 第66回日本公衆衛生学会総会. 愛媛. 2007.10.
- 37) 川戸美由紀, 橋本修二, 村上義孝, 泉田美知子, 太田晶子, 永井正規, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討(第2報) 全国罹患数推計値の週別推移. 第66回日本公衆衛生学会総会. 愛媛. 2007.10.
- 38) 泉田美知子, 永井正規, 太田晶子, 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討(第3報) 薬剤耐性菌感染症の流行状況. 第66回日本公衆衛生学会総会. 愛媛. 2007.10.
- 39) 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 泉田美知子, 太田晶子, 永井正規, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討(第4報) 全数把握対象疾患の流行状況. 第66回日本公衆衛生学会総会. 愛媛. 2007.10.
- 40) 松井珠乃, 佐藤弘, 岡部信彦, 安藤秀二, 岸本寿男, 尹 浩信, 坂崎善門, 瀬戸山充, 成田博実: 熊本県, 宮崎県の皮膚科医におけるつつが虫病, 日本紅斑熱のサーベイランス認知度と, 2005 年における診断・報告の現状. 第5回南九州地区合同皮膚科地方会. 鹿児島, 2007.7.
- 41) 松井珠乃: 施設内流行した麻疹の疫学調査, および麻疹対策の現状について(講演). 第27回茨城県小児科医会研修セミナー. 2007.5.
- 42) 松井珠乃: なぜ今, 麻疹対策が重要なのかーアウトブレイク事例からの教訓(講演). 熊本院内感染対策研修会学術講演会. 熊本, 2007.7.
- 43) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスと経済効果(講演). 第6回感染と消毒セミナー. 大阪, 2007.5.
- 44) 森兼啓太: 感染症・その予防と対策(講演). 川越市歯科医師会感染症講演会. 川越市, 2007.5.
- 45) 森兼啓太: 小児医療における院内感染対策(講演). 都立八王子小児病院院内感染対策セミナー. 八王子市, 2007.5.
- 46) 森兼啓太: 病院感染サーベイランス: その意義と目的(講演). 繋温泉病院院内感染対策研修会. 岩手, 2007.5.
- 47) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスと新型インフルエンザへの備え(講演). 中越院内感染対策セミナー. 長岡市, 2007.6.
- 48) 森兼啓太: 院内感染対策の基本と組織で取り組む感染対策(講演). 横浜船員保険病院院内感染対策研修会. 横浜市, 2007.6.
- 49) 森兼啓太: 病院感染対策の重要性とCDCガイドラインの効果的な適用(講演). 都立府中病院院内感染対策研修会. 府中市, 2007.6.
- 50) 森兼啓太: SSI 防止のグローバルスタンダード: ガイドラインとサーベイランス(講演). 第4回SSI 防止フォーラム. 福岡, 2007.6.
- 51) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスの意義と目的(講演). 湘南鎌倉総合病院・病院感染サーベ

感染症情報センター

- イランス講習会. 鎌倉市, 2007.6.
- 52) 森兼啓太: 手術部位感染の防止とサーベイランス(講演). 済生会広島病院第 17 回感染対策研修会. 安芸郡(広島), 2007.6.
- 53) 森兼啓太: 看護における感染予防の基礎(講演). 神奈川県看護協会教育研修会. 横浜市, 2007.7.
- 54) 森兼啓太: 最近の医療関連感染対策の潮流(講演). 第 7 回病院感染フォーラム横浜. 横浜市, 2007.7.
- 55) 森兼啓太: 院内感染とその対策の現状(講演). 埼玉県衛生研究所・感染症情報センター研修会. 埼玉, 2007.7.
- 56) 森兼啓太: CDC ガイドラインという名の黒船来航(特別講演). 第 11 回北海道器材・感染対策研究会. 札幌市, 2007.7.
- 57) 森兼啓太: 手術部位感染防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス(講演). 横浜南共済病院感染対策研修会. 横浜市, 2007.7.
- 58) 森兼啓太: 新しいCDC ガイドラインのインパクト(教育講演). 第 3 回 KCS エキスパートカンファレンス. 福岡市, 2007.7.
- 59) 森兼啓太: サーベイランス実践における国内外のサーベイランスデータの活用(講演). 第 10 回日本感染管理ネットワーク研修会. 東京, 2007.7.
- 60) 森兼啓太: 手術部位感染の減少を目指して(講演). けいゆう病院院内講演会. 横浜市, 2007.7.
- 61) 森兼啓太: 高齢者施設での感染症とその予防・対策(講演). 鳥根県介護老人保健施設研究大会. 松江市, 2007.8.
- 62) 森兼啓太: 感染制御をめぐる最新のトピックス(講演). 感染管理認定看護師のためのキャリアディベロプメント講座. 東京, 2007.9.
- 63) 森兼啓太: 院内感染対策実践編(講演). 横浜船員保険病院院内感染対策研修会. 横浜市, 2007.9.
- 64) 森兼啓太: 手術部位感染対策とサーベイランスの意義と有効性(講演). 筑波メディカルセンター講演会. つくば市, 2007.10.
- 65) 森兼啓太: 医療関連感染の現状(講演). 第 39 回城西大学薬学部生涯教育講座. 坂戸市(埼玉), 2007.10.
- 66) 森兼啓太: 病院感染サーベイランス - その目的と意義(特別講演). 第 59 回日本消化器内視鏡技師学会. 大阪, 2007.10.
- 67) 森兼啓太: 最新の感染症事情(講演). 第 10 回感染症予防歯科衛生士講習会. 東京, 2007.10.
- 68) 森兼啓太: 感染症と感染管理: 最新の動向(講演). 神奈川県看護協会教育研修会. 横浜市, 2007.10.
- 69) 森兼啓太: 院内感染対策: 新型インフルエンザを中心に(講演). 山口県立総合医療センター院内感染対策研修会. 防府市(山口), 2007.10.
- 70) 森兼啓太: サーベイランス(司会). 第 56 回日本感染症学会東日本地方会学術集会. 東京, 2007.10.
- 71) 森兼啓太: 外科手術部位感染管理とサーベイランス(特別講演). 第 6 回栃木県院内感染防止懇話会. 宇都宮市, 2007.10.
- 72) 森兼啓太: 施設内での感染症を防止するためには(講演). 平塚保健福祉事務所・感染症予防講演会. 平塚市(神奈川), 2007.11.
- 73) 森兼啓太: もし、院内感染のアウトブレイクが発生したら(講演). 名古屋第二赤十字病院・感染防止講演会. 名古屋市, 2007.11.
- 74) 森兼啓太: 新型インフルエンザにどう立ち向かうか: 企業における対策を考える(講演). 現代の企業リスクと事業継続経営研修会. 長野, 2007.11.
- 75) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランス(講演). 京都府立医科大学・院内感染対策研修会. 京都, 2007.11.
- 76) 森兼啓太: SSI サーベイランス: 日本の現状と今後の課題(講演). 第 60 回 ICD 講習会. 東京, 2007.11.
- 77) 森兼啓太: 手術部位感染対策のこれまでとこれから(特別講演). 第 7 回静岡感染制御研究会. 静岡, 2007.11.
- 78) 森兼啓太: 国内外のガイドラインにみる院内感染対策の潮流(講演). 第 3 回京滋院内感染対策

感染症情報センター

- 研究会. 京都, 2007.11.
- 79) 森兼啓太: 新型インフルエンザにどう備えるか? (講演). 福井県坂井健康福祉センター研修会. 坂井市(福井), 2007.11.
- 80) 森兼啓太: 感染症とその予防・対策(講演). 川越市感染症予防研修会. 川越市, 2007.11.
- 81) 森兼啓太: 新型インフルエンザ(講演). 高知医療センター院内感染対策研修会. 高知, 2007.12.
- 82) 森兼啓太: 新型インフルエンザ(講演). 日本看護協会看護教育研究センター研修会. 東京, 2007.12.
- 83) 森兼啓太: 知的障害者施設における感染症対策(講演). 知的障害者健康管理セミナー. 高崎市, 2007.12.
- 84) 森兼啓太: CDCの新しい感染対策ガイドライン(特別講演). 山陰労災病院・第4回ICT公開セミナー. 米子市, 2007.12.
- 85) 森兼啓太: 看護における感染予防の基礎(講演). 神奈川県看護協会教育研修会. 横浜市, 2007.12.
- 86) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランス: その実際と意義(講演). 都立豊島病院・感染対策講演会. 東京, 2007.12.
- 87) 森兼啓太: 手術部位感染対策のこれまでとこれから(講演). 東京女子医大八千代医療センターSSIセミナー. 八千代市(千葉), 2008.1.
- 88) 森兼啓太: 感染制御をめぐる内外の最新トピックス(講演). 感染管理認定看護師のためのキャリアディベロプメント講座. 東京, 2008.1.
- 89) 森兼啓太: 新型インフルエンザとその対策 - 医療面を中心として(講演). 新型インフルエンザ対策研修会. 京都, 2008.2.
- 90) 森兼啓太: ガイドラインとサーベイランスで手術部位感染を減らそう!(特別講演). 国立病院機構埼玉病院研修会. 和光市, 2008.2.
- 91) 森兼啓太: 感染管理の基礎と最新の動向(講演). 湘南中央病院研修会. 藤沢市(神奈川), 2008.2.
- 92) 森兼啓太: 手術部位感染防止のスタンダード: CDCガイドラインとサーベイランス(特別講演). 第5回北大阪感染症研究会. 大阪, 2008.2.
- 93) 森兼啓太: 第4回教育委員会講習会(司会). 第23回日本環境感染学会総会. 長崎市, 2008.2.
- 94) 森兼啓太: CDCガイドラインに見る手指衛生の潮流(教育セミナー). 第23回日本環境感染学会総会. 長崎, 2008.2.
- 95) 森兼啓太: 欧米における感染対策の状況についてのアウトライン(講演). 第23回日本環境感染学会総会. 長崎, 2008.2.
- 96) 森兼啓太: 手術部位感染防止のスタンダード: ガイドラインとサーベイランス(講演). 天草中央総合病院院内感染対策研修会. 天草市, 2008.2.
- 97) 森兼啓太: 病院感染対策アップデート(講演). JICSA感染対策セミナー. 福岡, 2008.3.
- 98) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスの意義と目的(講演). 長崎県済生会病院院内感染防止研修会. 長崎, 2008.3.
- 99) 森兼啓太: 新型インフルエンザへの対応(講演). 福井県済生会病院院内教育講演会. 福井, 2008.3.
- 100) 森兼啓太: 2008年日本の医療関連感染対策はどこへ行く?(特別講演). 第4回埼玉県感染対策セミナー. さいたま市, 2008.3.
- 101) 森兼啓太: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ(講演). 動物由来感染症研修会. 佐賀, 2008.3.
- 102) 大日康史: 新型インフルエンザの感染拡大(講演). 第35回日本救急医学会ICD講習会. 2007.10.
- 103) 安井良則: 感染症法改正と新型インフルエンザ対策について. 大阪府保健所医師業務研修会. 2007.4.
- 104) 安井良則, 岡部信彦: 公衆衛生対策について - 我が国における新型インフルエンザ対策 -. 日本感染症学会シンポジウム. 2007.4.
- 105) 安井良則: 鳥インフルエンザ・新型インフルエンザについて. 播磨政経懇話会. 2007.4.
- 106) 安井良則, 多田有希, 他: 2006/07 シーズン・インフルエンザの国内における流行状況について. 臨床ウイルス学会. 2007.6.
- 107) 安井良則: 新型インフルエンザに対する公衆衛生対策. 鹿児島県感染症危機管理研修会. 2007.6.
- 108) 安井良則: 乳幼児の集団生活施設における感染症対策について. 平成19年度保育所保健衛生専門研修会. 2007.6.

感染症情報センター

- 109) 安井良則：乳幼児の集団生活施設における感染症対策について、川越市保健所研修会. 2007.7
- 110) 安井良則：感染症情報センターからの情報発信とメディア対応について、保健医療科学院保健所長研修会. 2007.7
- 111) 安井良則：乳幼児の集団生活施設における感染症対策について、堺市民間保育園保育士会. 2007.7
- 112) 安井良則：感染症対策について、山口県防疫研修会. 2007.7
- 113) 安井良則：新型インフルエンザ対策ガイドラインについて、山口県疫学調査員養成研修会. 2007.7
- 114) 安井良則：新型インフルエンザについて、中津済生会病院研修会. 2007.8
- 115) 安井良則：ワクチン予防可能疾患に関する最近の話題、南河内ワクチン学術講演会. 2008.9
- 116) 安井良則：乳幼児の集団生活施設における感染症対策について、大分県保育所健康・安全保育研修会. 2007.9
- 117) 安井良則：新型インフルエンザ対策ガイドラインについて、鳥取県疫学調査員養成研修会. 2007.9
- 118) 安井良則：ワクチン予防可能疾患の現状と課題、郡山市医師会定期予防接種受託講習会. 2007.10
- 119) 安井良則：感染症対策について、堺市健康づくり推進市民会議. 2007.10
- 120) 安井良則：予防接種関連疾患の最近の話題、春日部市医師会学術講演会. 2007.10
- 121) 安井良則、岡部信彦：地域が行う積極的疫学調査、第66回日本公衆衛生学会総会. 2007.10
- 122) 安井良則：最近話題となった感染症について、大阪小児感染症研究会. 2007.10
- 123) 安井良則：新型インフルエンザ対策について、山形県置賜保健所研修会. 2007.11
- 124) 安井良則：乳幼児の集団生活施設における感染症対策について、佐賀県保育所健康・安全保育研修会. 2007.11
- 125) 安井良則、砂川富正、他：2007年の麻疹流行時における発生動向調査結果について、第39回日本小児感染症学会学術総会. 2007.11
- 126) 安井良則：乳幼児の集団生活施設における感染症対策について、東京都社会福祉協議会保健部会勉強会. 2007.11
- 127) 安井良則：インフルエンザについて、福岡市東区内科医会学術講演会. 2007.11
- 128) 安井良則：臨床医が知っておくべき最新のウイルス感染症事情、尼崎市内科医会学術講演会. 2007.11
- 129) 安井良則：ノロウイルス感染症対策研修会、川崎市研修会. 2007.11
- 130) 安井良則：感染症の知識と対応、渋谷区保育施設研修会. 2007.11
- 131) 安井良則：インフルエンザを含めた感染症の最近の話題、堺市医師会保育所嘱託医会. 2007.11
- 132) 安井良則：保育所における感染症対策、大阪府熊取町保育所研修会. 2007.11
- 133) 安井良則：保育所における感染症対策、草加市保育部会看護師部会研修会. 2007.11
- 134) 安井良則：感染症の最近の話題、大阪市立大学医学部附属病院 Infection Control 研究会. 2008.1
- 135) 安井良則：ノロウイルス感染症&新型インフルエンザ、平成19年度近畿中央胸部疾患センター研修会. 2008.3
- 136) 安井良則：麻しん排除を目指して、山口県麻疹研修会. 2007.3
- 137) 安井良則：麻しんを含めた今後の予防接種対策について、平成20年度堺市感染症研修会. 2007.3
- 138) 安井良則：麻しんの現状と対策について、福岡県教育関係者研修会. 2007.3
- 139) 安井良則：これからの麻しん対策について、千葉県麻疹対策研修会. 2007.3
- 140) 多田有希：感染症への対応と予防、東京都教職員研修、東京、2007.7
- 141) 多田有希：STD全般の疫学、埼玉県性感染症予防対策推進者要請研修会、埼玉、2008.2
- 142) 多田有希：最新の感染症情報、日本渡航医学会等主催：新型インフルエンザ・麻疹対策セミナー、東京、2008.2
- 143) 多田有希：感染症発生動向調査の実際、感染制御部門疫学検査分野研修会、福島、2008.2
- 144) 多田有希：麻しんを含む感染症発生動向調査、衛

感染症情報センター

- 生検査専門技術研修．佐賀．2008.2
- 145) 齊藤剛仁, 伊豫田淳, 山本章二, 陸彦, 志牟田健, 大西真, 寺嶋淳, 渡邊治雄: 腸管出血性大腸菌におけるLEEとエンテロヘモリシンの協調発現制御機構. 第81回日本細菌学会総会. 京都府. 2008.3
- 146) 山下和予: 病原体検出情報システムの現状と問題点. 第21回公衆衛生情報研究協議会研究会 2008.2 埼玉県和光市
- 147) 山本(上野)久美, 多屋馨子, 岡部信彦: 速報: 第2期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査 - 2006年10月1日現在中間評価 -. 第48回臨床ウイルス学会 富山県. 2007.6.
- 148) 山本(上野)久美, 大日康史, 菅原民枝, 多屋馨子, 安井良則, 西藤なるを, 砂川富正, 岡部信彦: 「麻疹発生データベース」における2007年の全国麻疹発生状況. 第39回小児感染症学会. 横浜市. 2007.11.
- 149) 山本(上野)久美, 多屋馨子, 岡部信彦: 2006年度第2期麻疹・風しんワクチン接種に関する全国調査最終評価. 第11回日本ワクチン学会. 横浜市. 2007.12.
- 150) 佐藤弘, 多屋馨子, 小田切孝人, 田代真人, 岡部信彦, 感染症流行予測調査事業担当者グループ: 2006/07シーズン前インフルエンザ抗体保有状況(2006年度感染症流行予測調査事業より). 第48回日本臨床ウイルス学会. 富山県富山市. 2007.6.
- 151) 佐藤弘, 多屋馨子, 高崎智彦, 倉根一郎, 岡部信彦, 感染症流行予測調査事業担当者グループ: わが国におけるヒト及びブタの日本脳炎抗体保有状況(2006年度感染症流行予測調査より). 第39回日本小児感染症学会. 神奈川県横浜市. 2007.11.
- 152) 佐藤弘, 多屋馨子, 駒瀬勝啓, 田代真人, 岡部信彦, 感染症流行予測調査事業担当者グループ: わが国における麻疹及び風疹に対する抗体保有状況(2006年度感染症流行予測調査より). 第11回日本ワクチン学会. 神奈川県横浜市. 2007.12.
- 153) 荒木和子, 多屋馨子, 岡部信彦: OPV 初回投与後の糞便中から検出されたポリオウイルス2型株にみられたゲノム変異第10回ワクチン学会. 横浜 2007.12.
- 154) 多屋馨子, 感染症情報センター麻疹風疹対策チーム: 感染症情報麻疹の流行の背景と要因分析について. 第13回予防接種に関する検討会. 東京都 2007.6.
- 155) 多屋馨子: インフルエンザを含む感染症の動向について. 平成19年度都道府県インフルエンザワクチン担当者会議. 東京都. 2007.9.
- 156) 多屋馨子: 最近のインフルエンザに関する話題について. 第二回 札幌地区インフルエンザ講演会. 札幌市. 2007.11.
- 157) 多屋馨子: 病原微生物とホストを一体で把える予防の立場から第48回ICD講習会(第81回日本感染症学会総会時). 京都市. 2007.4.
- 158) 多屋馨子: 水痘・带状疱疹の重症化例調査. 第14回JHIFヘルペス感染症フォーラム. 札幌市. 2007.8.
- 159) 多屋馨子: インフルエンザと麻疹に関する話題 - ワクチンを中心に -. 第21回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム・ランチョンセミナー. 横浜市. 2007.5.
- 160) 多屋馨子: 麻疹(はしか)を知る. 都立井草高校麻疹研修会. 東京都練馬区. 2007.4.
- 161) 多屋馨子: ワクチンに関する最近の話題. 越谷市医師会 学術講演会. 埼玉県越谷市 2007.6.
- 162) 多屋馨子: 2012年麻疹排除に向けて - 横浜から麻疹ゼロをめざして -. 平成19年度 横浜市衛生研究所 衛生技術研修会. 横浜市. 2008.2.
- 163) 多屋馨子: 今年度の麻疹流行から考える. 平成19年度感染症に関する研修会. 岡山市. 2007.10.
- 164) 多屋馨子: 2007年の麻疹流行の特徴と2012年麻疹排除に向けた取り組み. 麻疹対策研修会. 岡山市. 2008.2.
- 165) 多屋馨子: インフルエンザの予防について. 感染研市民セミナー. 東京都武蔵村山市 2008.1.
- 166) 多屋馨子: 学校・職場・病院における感染制御と予防接種-本邦における Vaccine Preventable Disease の流行状況と疫学. 第23回日本環境感染学会総会. 長崎市. 2008.2.
- 167) 多屋馨子: 緊急提言 近年の麻疹・風疹の流行の特

感染症情報センター

- 徴とその対策. 第 39 回 日本小児感染症学会総会・学術集会, 横浜市, 2007. 11.
- 168) 多屋馨子: 2007 年の麻疹の現状と対策. 群馬県麻疹講演会, 群馬県前橋市, 2007. 6.
- 169) 多屋馨子: ワクチンに関する最近の話題～麻疹を中心に～. 平成 19 年度江戸川区医師会研修会, 東京都江戸川区, 2007. 5.
- 170) 多屋馨子: 感染症の理解と学校における対応. 江戸川区小・中学校教育研究会合同講演会, 東京都江戸川区, 2007. 12.
- 171) 多屋馨子: 日常診療に役立つインフルエンザの話題～季節性のインフルエンザと新型インフルエンザ～. 第 7 回高知県ウイルス感染症研究会, 高知市, 2008. 3.
- 172) 多屋馨子: 百日咳に関する血清疫学調査ならびに百日咳を含むワクチンの国内接種状況. 高知県, 高知県中央東福祉保健所, 高知大学, 高知大学医学部附属病院における百日咳合同対策会議, 高知県南国市, 2007. 8.
- 173) 多屋馨子: ワクチンに関する最近の話題～2007 年の麻疹流行と水痘を含めて～. 佐賀県医師会小児科医部会学術講演会, 佐賀県佐賀市, 2007. 7.
- 174) 多屋馨子: 麻疹・風疹の感染拡大防止対策～麻疹・風疹 elimination にむけて～. 第 70 回鹿児島県小児科医会学術講演会, 鹿児島県鹿児島市, 2007. 6.
- 175) 多屋馨子: 予防接種に関する最近の話題. 取手守谷地区ワクチン研究会, 茨城県取手市, 2007. 11.
- 176) 多屋馨子: 予防接種関連疾患の最新の話題～インフルエンザ・はしかを主として～. 習志野市医師会・小児科医会・予防接種委員会, 千葉県千葉市, 2007. 12.
- 177) 多屋馨子: 予防接種-改変後の現状と新たな展開. 第 216 回順天堂大学浦安病院小児科水曜講演会, 千葉県浦安市, 2007. 4.
- 178) 多屋馨子: 最近のはしか・風疹の国内現状と対策～はしかを中心に～. 第 6 回はしかゼロ対策小児科医協議会/風疹をなくす会, 京都市, 2007. 4.
- 179) 多屋馨子: 学校における冬の感染症対策と、今年の麻疹流行を振り返る. 世田谷区予防接種研修会, 東京都世田谷区, 2007. 12.
- 180) 多屋馨子: 2007 年の麻疹流行から学ぶ～2012 年麻疹排除に向けた国を挙げた取り組み～. 予防接種センター講演会, 静岡市, 2008. 3.
- 181) 多屋馨子: 麻疹の現状とその対策. 第 10 回石川感染対策フォーラム, 石川県金沢市, 2007. 6.
- 182) 多屋馨子: ウイルス感染症対策. 平成 19 年度院内感染対策講習会, 宮城県仙台市, 2007. 11.
- 183) 多屋馨子: 学校での麻疹対策. 千代田区保健所麻疹会議, 東京都千代田区, 2008. 3.
- 184) 多屋馨子: 麻疹発生時の対応と今後の対策. 麻疹(はしか)対策研修会, 東京都千代田区, 2007. 6.
- 185) 多屋馨子: これからの麻疹対策について. 平成 19 年度千葉県予防接種担当者研修会, 千葉県市原市, 2008. 3.
- 186) 多屋馨子: 麻疹の排除に向けて～積極的疫学調査・学校などでの感染拡大防止を含めて～. 川崎市感染症危機管理研修会, 川崎市, 2008. 3.
- 187) 多屋馨子: 麻疹流行中～今からすぐに対応開始!～. 多摩小平感染症 up-to-date! 講演会, 東京都小平市, 2008. 3.
- 188) 多屋馨子: 麻疹～排除に向けて～. 第 30 回大阪小児感染症・アレルギー談話会, 大阪市, 2007. 12.
- 189) 多屋馨子: 日本の現状に最適なワクチン接種とは～予防接種関連疾患の最新の話題～. 第 10 回関西感染症フォーラム (FlInD in Kansai), 大阪市, 2007. 12.
- 190) 多屋馨子: 麻疹対策～2007 年の麻疹流行から学ぶ～. 第 9 回国立大学附属病院感染対策協議会, 群馬県高崎市, 2007. 11.
- 191) 多屋馨子: 感染症だより - 予防接種関連情報～第 16 回予防接種に関する検討会より～. 第 550 回日本小児科学会東京都地方会講話会, 東京都板橋区, 2007. 9.
- 192) 多屋馨子: 麻疹流行しはじめました! 国内 elimination に向けた対策～最新情報～. 第 553 回日本小児科学会東京都地方会講話会, 東京都板橋区, 2008. 1.
- 193) 多屋馨子: 2007 年の麻疹流行から学ぶ. 感染症対策講演会, 東京都中野区, 2007. 12.
- 194) 多屋馨子: 麻疹と今後の国の麻疹対策について～その他学校で気を付けたい感染症～. 中野区立上鷺宮小学校研修会, 東京都中野区, 2007. 9.

感染症情報センター

- 195) 多屋馨子:麻疹の流行に際して取るべき行動.町田市医師会 学術講演会,東京都町田市,2007.5.
- 196) 多屋馨子:これからの麻しん対策について.長生保健所麻疹研修会,千葉県茂原市,2008.3.
- 197) 多屋馨子:予防接種に関する最近の話題.平成19年度医療従事者感染症対策研修会.長野県佐久市,2007.11.
- 198) 多屋馨子:学校における感染症発生時の対応について(麻しん対策を中心に).東京都感染症対策説明会,東京都新宿区,2007.4.
- 199) 多屋馨子:学校における危機管理 感染症について.東京都指導者研修会,東京都文京区,2008.1.
- 200) 多屋馨子:集団の中での感染症とその対応.東京都特別区第二ブロック保育園園長会.東京都荒川区,2007.6.
- 201) 多屋馨子:最近の予防接種に関する話題.第2回奈良県肺炎球菌ワクチン研究会学術会議.奈良県大和郡山市,2007.11.
- 202) 多屋馨子:2007年の麻疹流行と麻疹対策.平成19年度第2回院内感染対策講演会,東京都文京区,2008.2.
- 203) 多屋馨子:予防接種の最近の話題.第39回日本小児感染症学会総会・学術集会ランチョンセミナー.横浜市,2007.11.
- 204) 多屋馨子:ワクチンに関する最近の話題~MR ワクチンを中心に~.日野市医師会学術講演会,東京都日野市,2008.3.
- 205) 多屋馨子:今,ましん(はしか)を考える~麻しん(はしか)の予防方法~.武蔵野市学校保健委員会研修会,東京都武蔵野市,2008.2.
- 206) 多屋馨子:2006/2007年の麻疹流行に学ぶ~2012年国内麻疹排除に向けて~.福岡地区小児科医会学術講演会,福岡市,2008.2.
- 207) 多屋馨子:国内外の麻しんの現状と対策.文部科学省主催学校保健事務担当者連絡会.東京都渋谷区,2008.2.
- 208) 多屋馨子:麻疹排除に向けて~2007年の麻疹流行から得られたもの~.兵庫県平成19年度感染症研修会,神戸市,2007.12.
- 209) 多屋馨子:最近の感染症動向とその対策~麻疹,インフルエンザを中心として~.鳥取県西部予防接種講演会.鳥取県米子市,2007.11.
- 210) 多屋馨子:はしかの事例から、感染症対策を考える.平成19年度 保育所保育・保健推進セミナー.東京都渋谷区,2008.2.
- 211) 多屋馨子:『麻疹』-今年の流行にそなえる-国内外における麻疹の現状と対策.国際感染症セミナー.東京都新宿区,2007.4.4
- 212) 多屋馨子:麻疹の流行と予防接種に関する最近の話題.第4回名鉄病院予防接種懇話会,名古屋市,2007.6
- 213) 多屋馨子:保育園の感染症について.名古屋市保育園研修会,2007.5.
- 214) 多屋馨子:薬学部における感染症対策~学生が被害者や加害者にならないために~2012年、国内からの麻疹排除をめざして~2007年の流行から学ぶ~.薬学教育協議会東海地区実務実習調整機構・名城大学薬学部実務実習部門主催 日本薬学会東海支部共催特別講演会.名古屋市,2008.3.
- 215) 多屋馨子:感染症の予防と対策について.足立区養護教諭研修会.東京都足立区,2007.8.
- 216) 多屋馨子:最近の感染症の傾向と予防について~感染症にかからないために子どもが自分でできる健康管理~.練馬区立南田中小学校学校保健委員会.東京都練馬区,2007.8.
- 217) 山本(上野)久美:インフルエンザ予防教室~この冬を元気にのりきるために~.立川市健康予防教室.東京都立川市,2007.11.
- 218) 山本(上野)久美:水痘ワクチンによる带状疱疹予防効果と国をあげた麻しん対策について.新潟市予防接種委託医療機関研修会.新潟県新潟市,2008.3.
- 219) 山本(上野)久美:国をあげた麻しん排除計画の概要.学校との連携の重要性について.沖縄県予防接種および麻しん対策協議会.沖縄県那覇市,2008.3.
- 220) 藤本嗣人,篠原美千代,宗村徹也,西尾治,近平雅嗣,谷口清州,岡部信彦:脳炎患者から採取された臨床検体中エンテロウイルス71の定性・定量的検討.第55回日本ウイルス学会学術集会.札幌市,2007.10.

感染症情報センター

- 221) 藤本嗣人, 松野重夫, 岡部信彦: アデノウイルスレファレンスセンター活動のためのアンケート調査. 第 8 回日本アデノウイルス研究会. 札幌市. 2007.10.
- 222) 村上裕子, 斎藤博之, 松野重夫: 2006 年~2007 年に発生した感染性胃腸炎におけるノロウイルス遺伝子型の比較. 第 56 回日本感染症学会東日本地方会学術集会第 54 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京, 2007.1
- 223) 陸彦, 伊豫田淳, Clauda Toma, 伊藤健一郎, 八柳潤, 大西真, 寺島淳, 渡辺治雄: LEE 非保有型の志賀毒素産生性大腸菌が保有する新規免疫グロブリン結合遺伝子ファミリーの解析. 第 81 回日本細菌学会総会, 京都, 2008. 3
- 224) 飯田真里子, 伊藤健一郎, 岡村登: 腸管病原性大腸菌の局在性付着関連遺伝子 *bfpA* と自己凝集能. 第 81 回日本感染症学会総会, 京都, 2007. 4.
- 225) 木村博一: 有機リンの慢性毒性について - 文献的考察 -. 有機リン・シックハウス症候群の最前線(群馬県主催). 前橋市. 2007.5.
- 226) 木村博一: ウイルス検査法概論. さいたま市健康科学研究センター研修会. さいたま市. 2007.7.
- 227) 木村博一: ウイルス感染症に対する予防と感染防止対策. 群馬県藤岡保健福祉事務所研修会. 藤岡市. 2007.11.
- . その他**
- 1) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. WHO 感染確定症例数, 2007.4-2008.3.
http :
//idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/case200800/case080430.html
- 2) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. WHO 更新情報, 2007.4-2008.3.
http :
//idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-whoup.html
- 3) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. 新着情報, 2007.4-2008.3.
http :
//idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html
- 4) 感染症情報センター: トリインフルエンザの分布図, 2007.4-2008.3.
http :
//idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-map.html
- 5) 感染症情報センター: インフルエンザ Q & A 「一般向け」・「医療従事者向け」. (平成 17 年 4 月改訂), 2007.4.-2008.3.
http :
//idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html
- 6) 佐藤弘, 北本理恵, 多屋馨子: ブタの日本脳炎 HI 抗体保有状況(速報). 第 1 報: 2007.7.12 - 第 18 報: 2007.12.28.
http ://idsc.nih.go.jp/yosoku/JE/JEmenu-sw.html
- 7) 佐藤弘, 北本理恵, 多屋馨子: 流行シーズン前インフルエンザ HI 抗体保有状況(速報). 第 1 報: 2007.12.26 - 第 3 報: 2008.2.5.
http ://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flumenu.html
- 8) 松岡静香, 多屋馨子, 佐藤弘, 山本(上野)久美, 岡部信彦: 日本の定期/任意予防接種スケジュール(2006.6.2以降).
http ://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/Imm06JP-rev3.gif
- 9) 柴崎伸子, 多屋馨子, 岡部信彦: 日本の定期/任意予防接種スケジュール(2007.4.1以降).
http ://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/Imm08JP.gif
- 10) 松岡静香, 多屋馨子, 岡部信彦: 麻疹ワクチンキャンペーンポスター.
http ://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn04/birthday-poster2007.pdf
- 11) 松岡静香, 多屋馨子, 山本(上野)久美, 岡部信彦: 麻疹・風疹ワクチンキャンペーンポスター.
http ://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn07/2008vaccine-poster.pdf
- 12) 多屋馨子, 山本(上野)久美, 砂川富正, 安井良則, 多田有希, 松井珠乃, 島田智恵, 岡部信彦: 医療機関での麻疹対応について(第二版). http :
//idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/hospital_ver2.pdf
- 13) 多屋馨子, 山本(上野)久美, 安井良則, 砂川富正, 岡部信彦: 国立感染症研究所感染症情報セン

感染症情報センター

- ター作成、文部科学省・厚生労働省監修、学校における麻疹対策ガイドライン。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/hospital_ver2.pdf](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/hospital_ver2.pdf)
- 14) 砂川富正、山本(上野)久美、安井良則、多田有希、島田智恵、松井珠乃、多屋馨子、谷口清州、岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター、厚生労働省結核感染症課：都道府県における麻疹対策会議のガイドライン。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/prefecture_200805.pdf](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/prefecture_200805.pdf)
- 15) 安井良則、砂川富正、山本(上野)久美、島田智恵、多屋馨子、多田有希、谷口清州、岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター：麻疹排除に向けた積極的疫学調査ガイドライン第二版。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/active_ver2.pdf](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/active_ver2.pdf)
- 16) 多田有希、島田智恵、安井良則、山本(上野)久美、多屋馨子、谷口清州、山下和予、岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター：医師における麻疹届出ガイドライン第二版。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/doctor_ver2.pdf](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/doctor_ver2.pdf)
- 17) 砂川富正、多屋馨子、多田有希、安井良則、山本(上野)久美、岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター・厚生労働省結核感染症課：ブロック会議関連資料等。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/bloc/measlesBloc.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/bloc/measlesBloc.html)
- 18) 山本(上野)久美、多屋馨子、佐藤弘、山本明史、岡部信彦：麻疹教育啓発ビデオ「はしかから身を守るために」(DVD, 動画)。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/Video/measlesVideo.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/Video/measlesVideo.html)
- 19) 山本明史、山本(上野)久美、多屋馨子、岡部信彦：麻疹排除ロゴマーク(日本語版、英語版)。http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html)
- 20) 山本明史、山本(上野)久美、多屋馨子、岡部信彦：麻疹排除に向けての標語「はしかにならない！はしかにさせない！」http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html)
- 21) 多屋馨子、岡部信彦、高崎智彦、倉根一郎、厚生労働省結核感染症課：日本脳炎 Q&A http :
[//idsc.nih.go.jp/disease/JEncephalitis/QAJE.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/JEncephalitis/QAJE.html)